



平里
ありさ
さんの
日々。



平里
ありさ
さんの
日々。

Diary of Alisa & Hana.
- contents -

第1話 . . . 3

第2話 . . . 19

第3話 . . . 31

第4話 . . . 43

第5話 . . . 55

第6話 . . . 71

予告 . . . 89

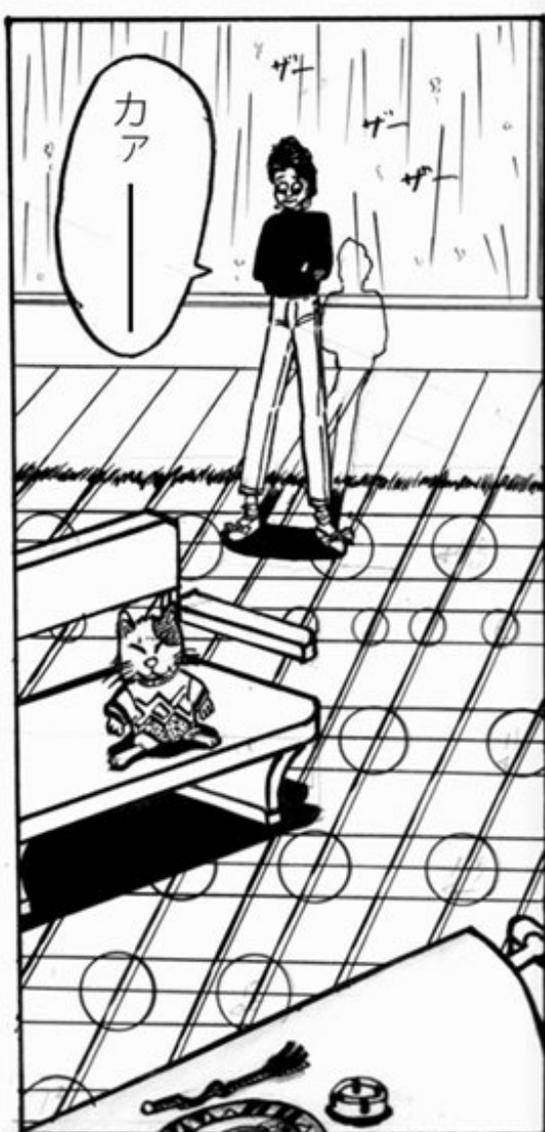
平里ありささんの日々。

～1人芝居も楽じゃないよねえ～

第1話、まず初めに2人ね！ について。







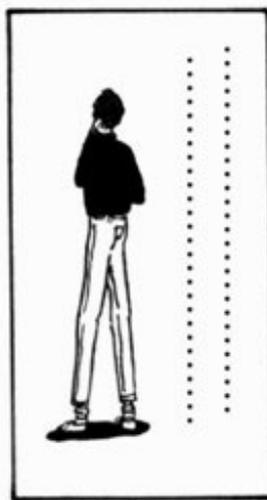




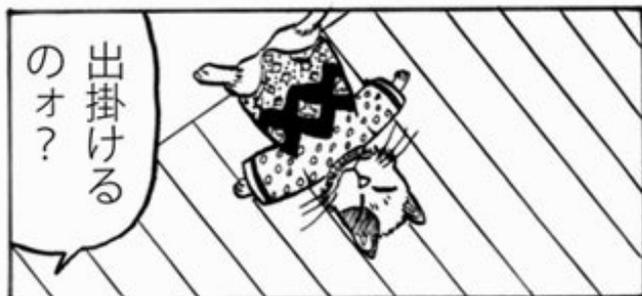


RuRuRu RuRuRu!
RuRuRuRu RuRuRu!
RuRuRuRu RuRuRu!
RuRuRu RuRuRu!
RuRuRuRu RuRuRuRu!
RuRuRuRuRuRuRu!





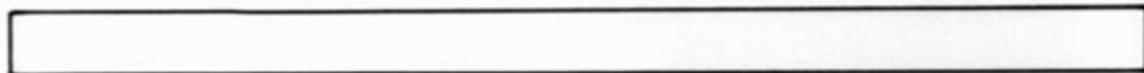
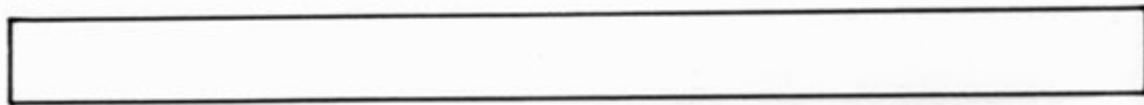
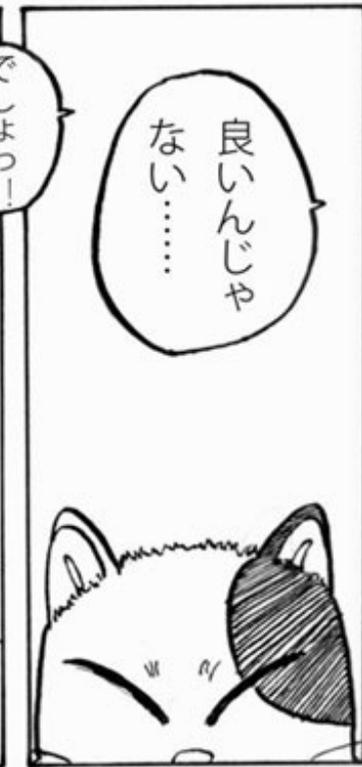


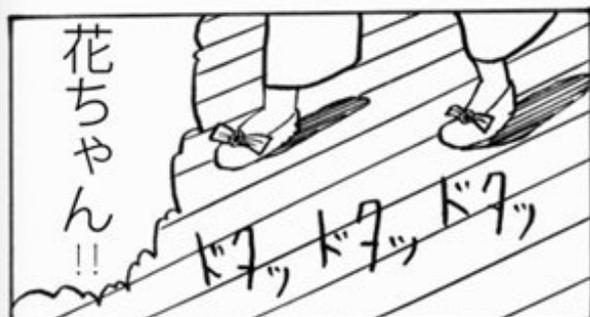


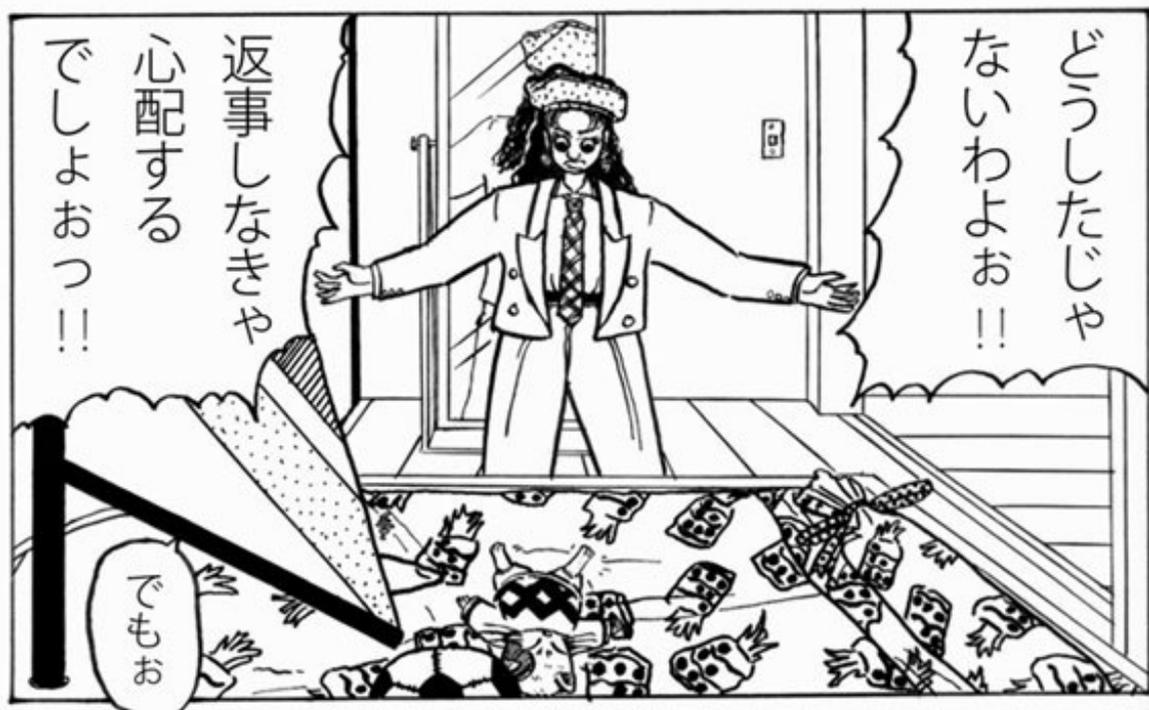


結局
それに
なったの？





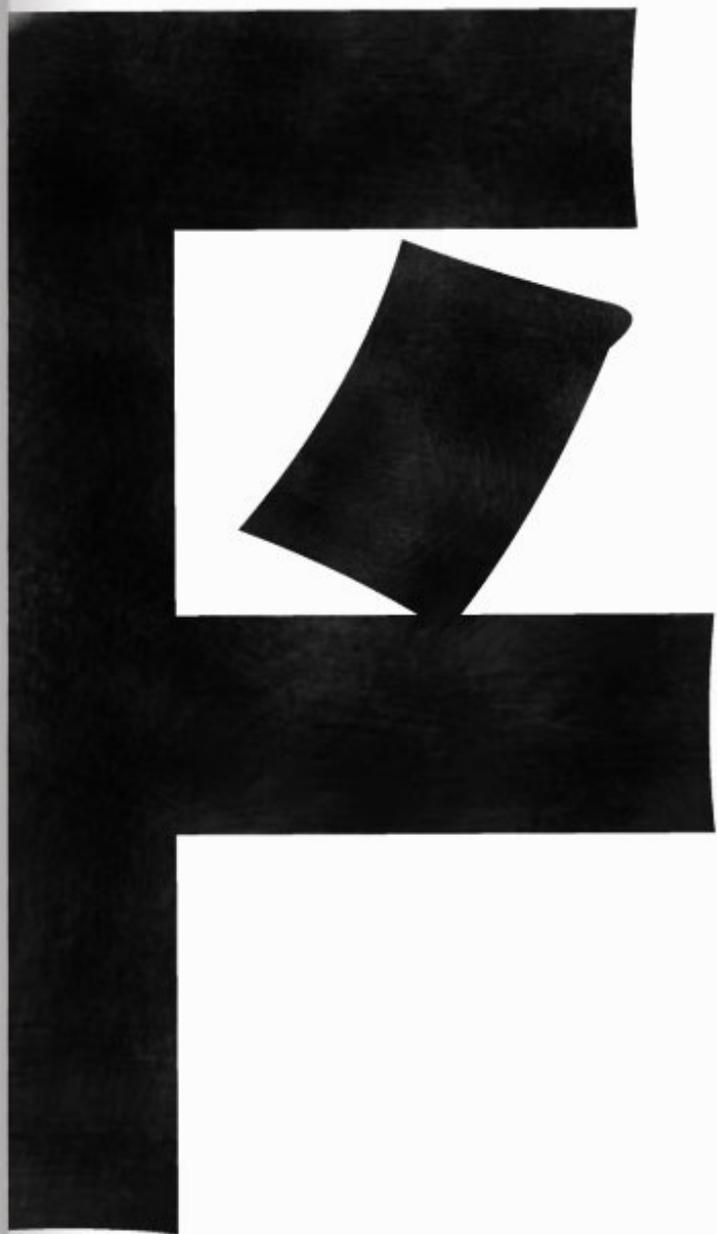


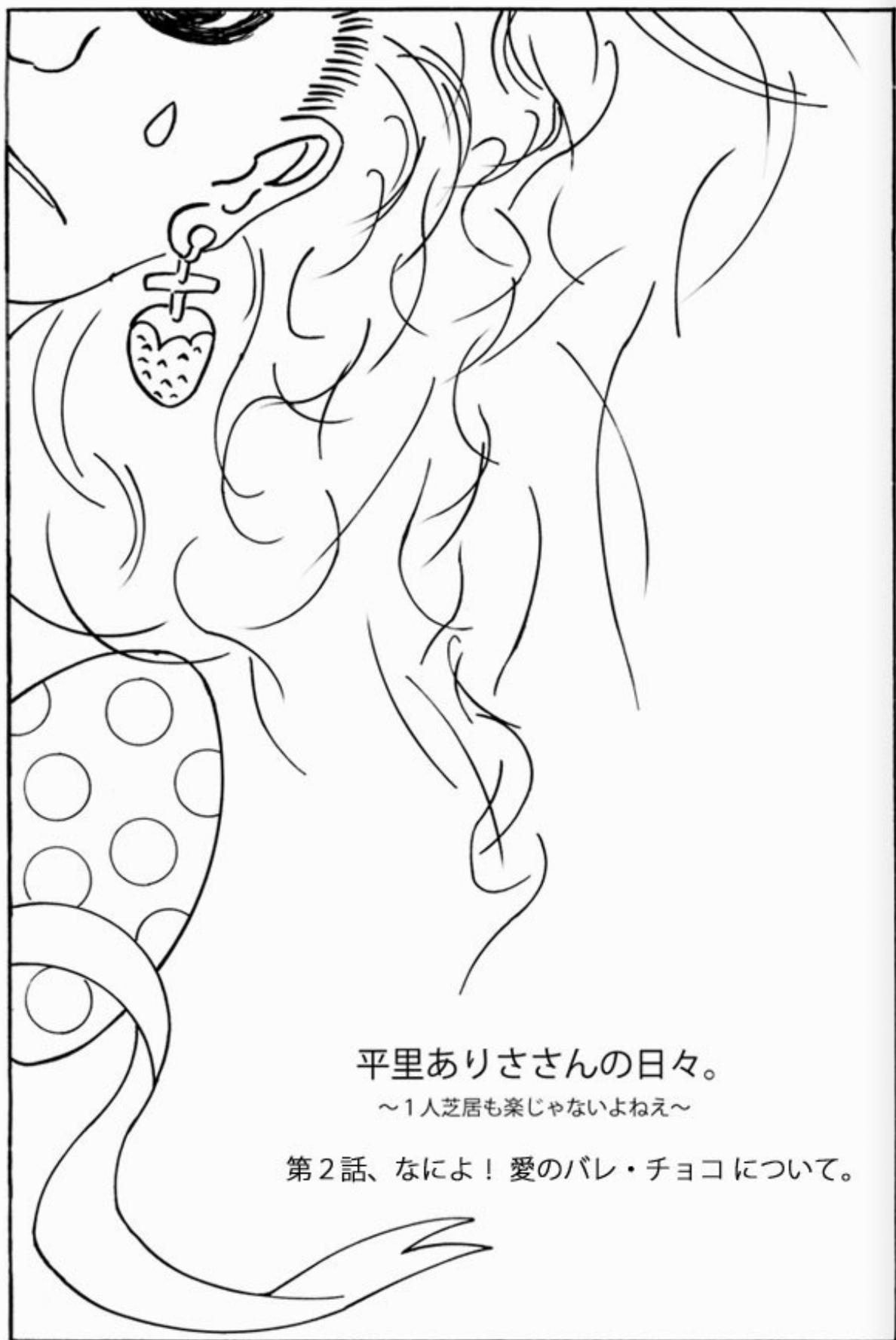






まず初めに2人ね!! について END





平里ありささんの日々。

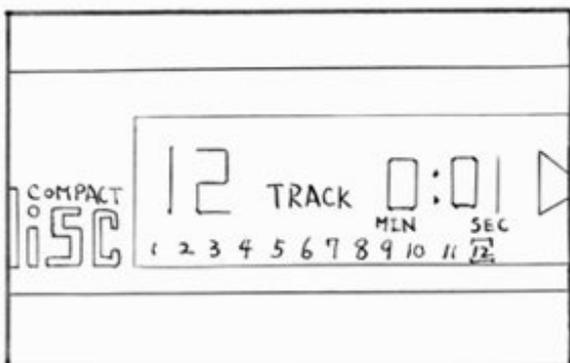
～1人芝居も楽じゃないよねえ～

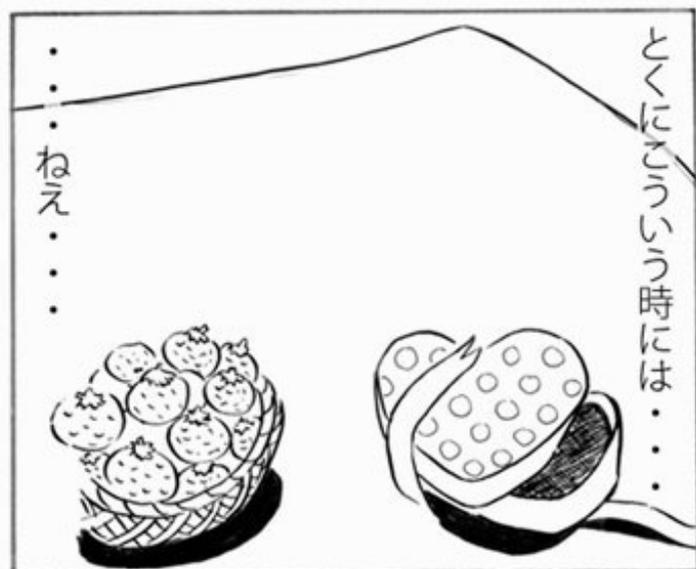
第2話、なによ！愛のバレ・チョコについて。

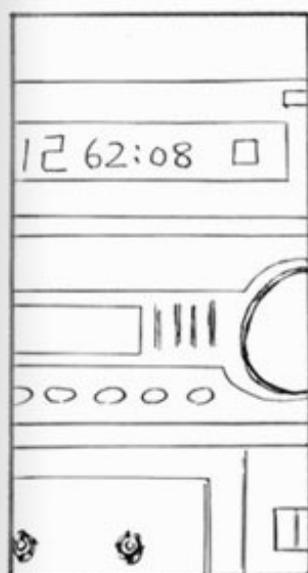


♪ふ...ふ...あ〜く〜はわわの

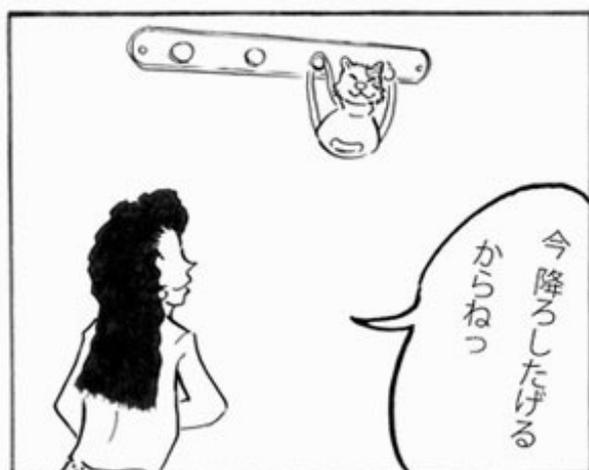
ユーミンを聴きながら...

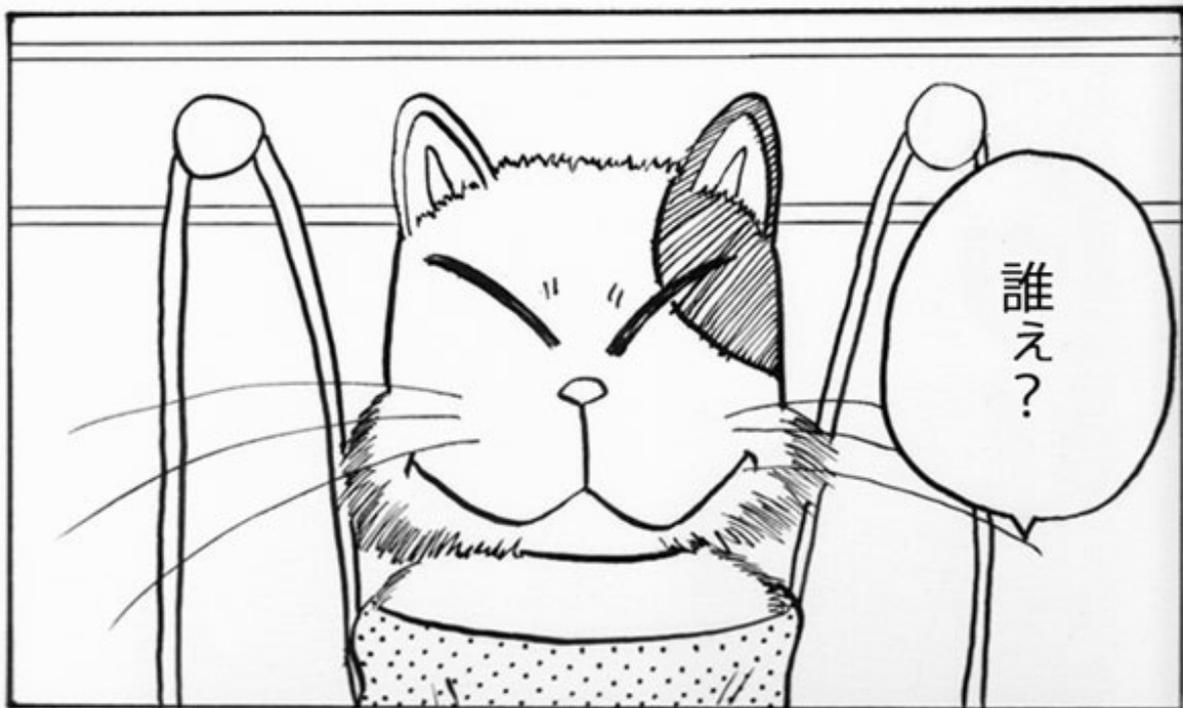
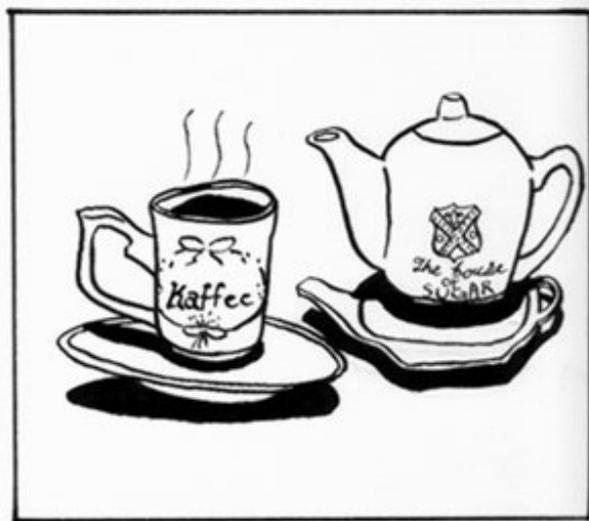
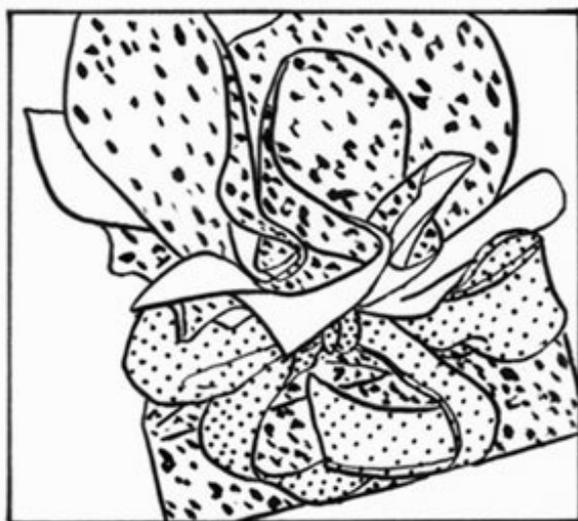


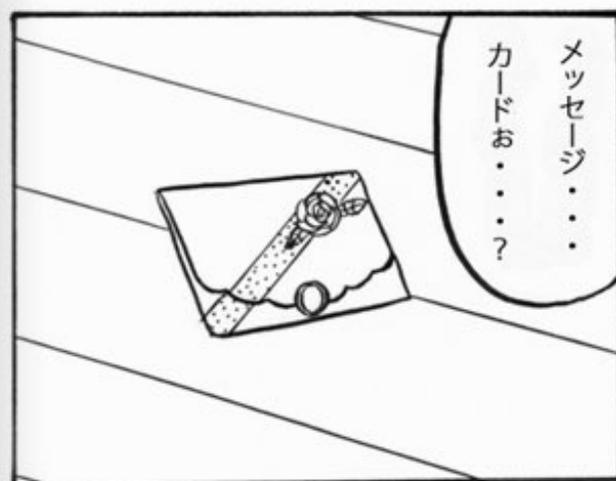


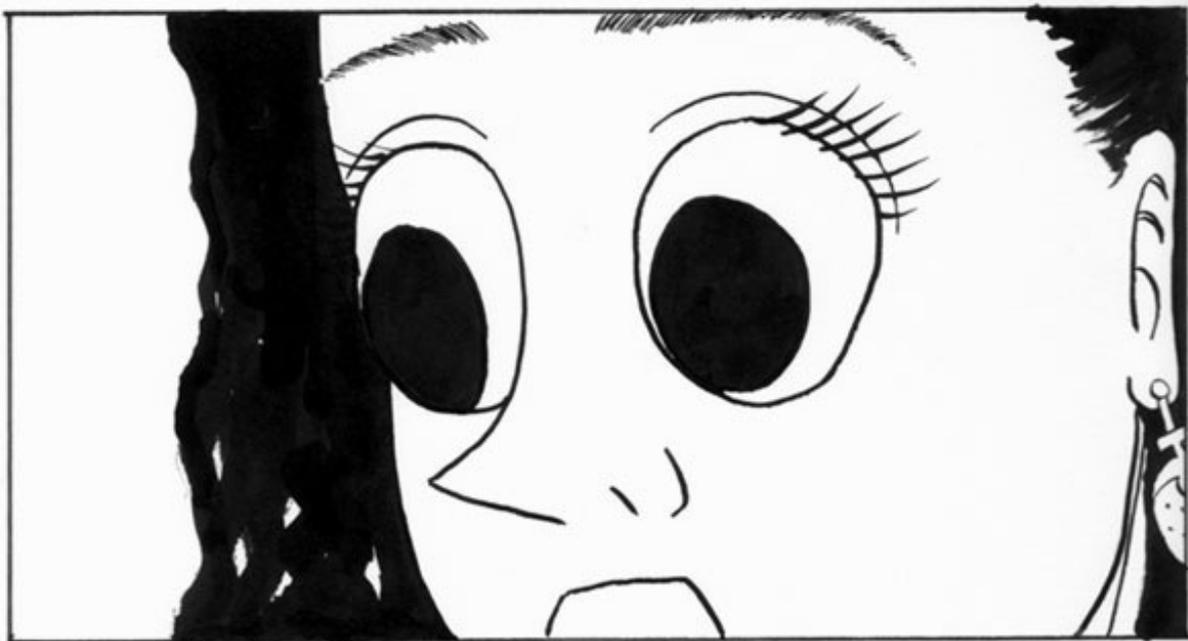


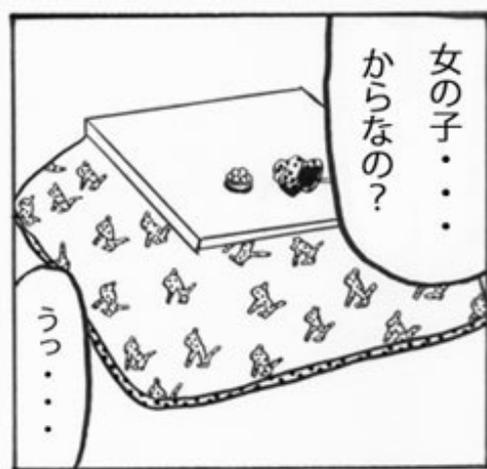
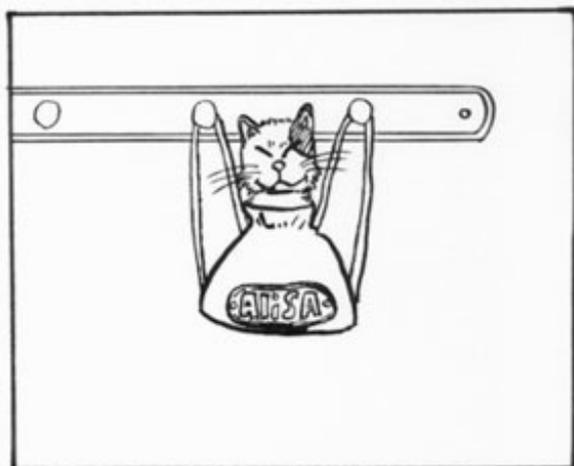


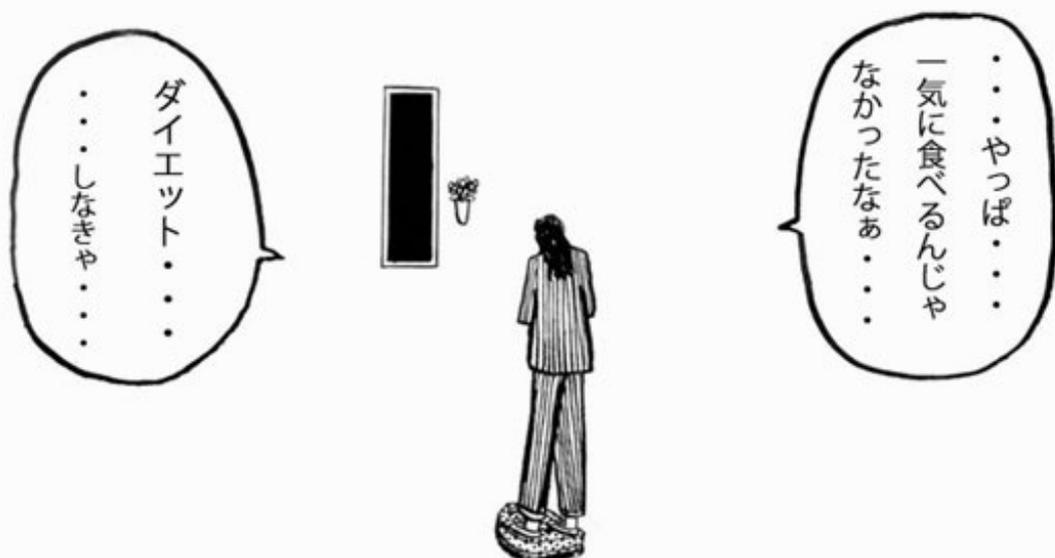




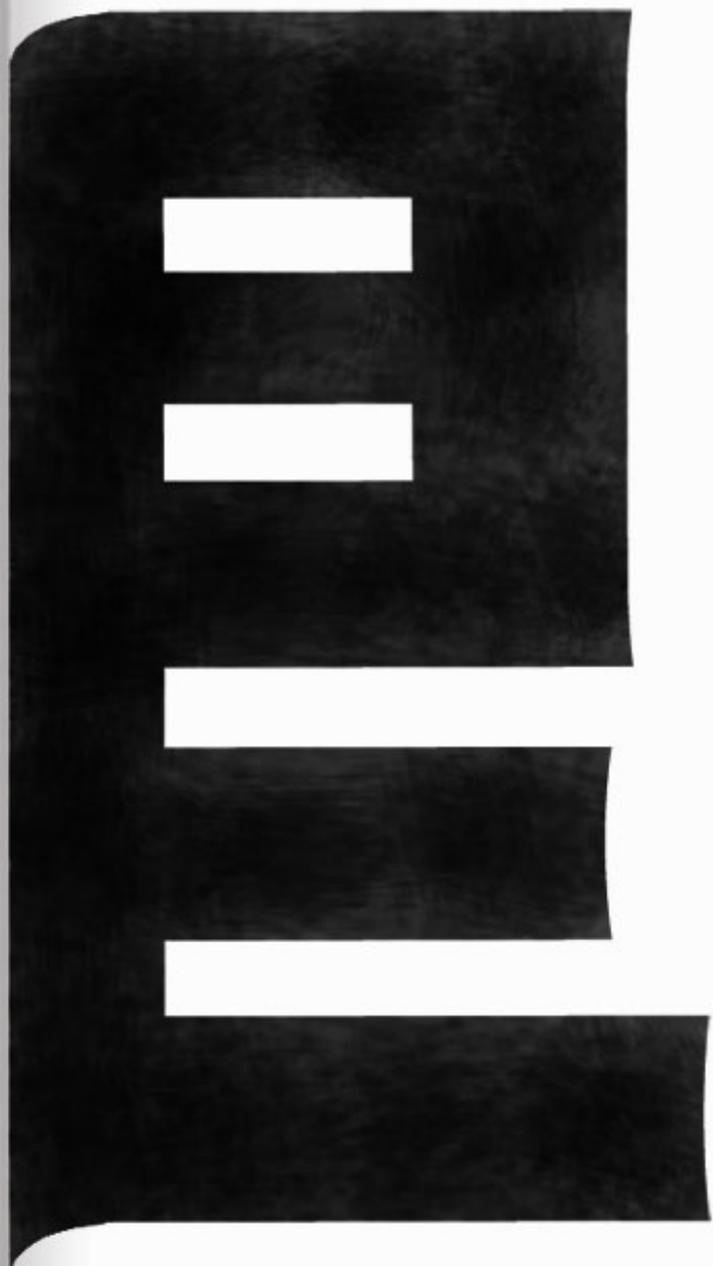








なによ! 愛のバレ・チョコ について、 END

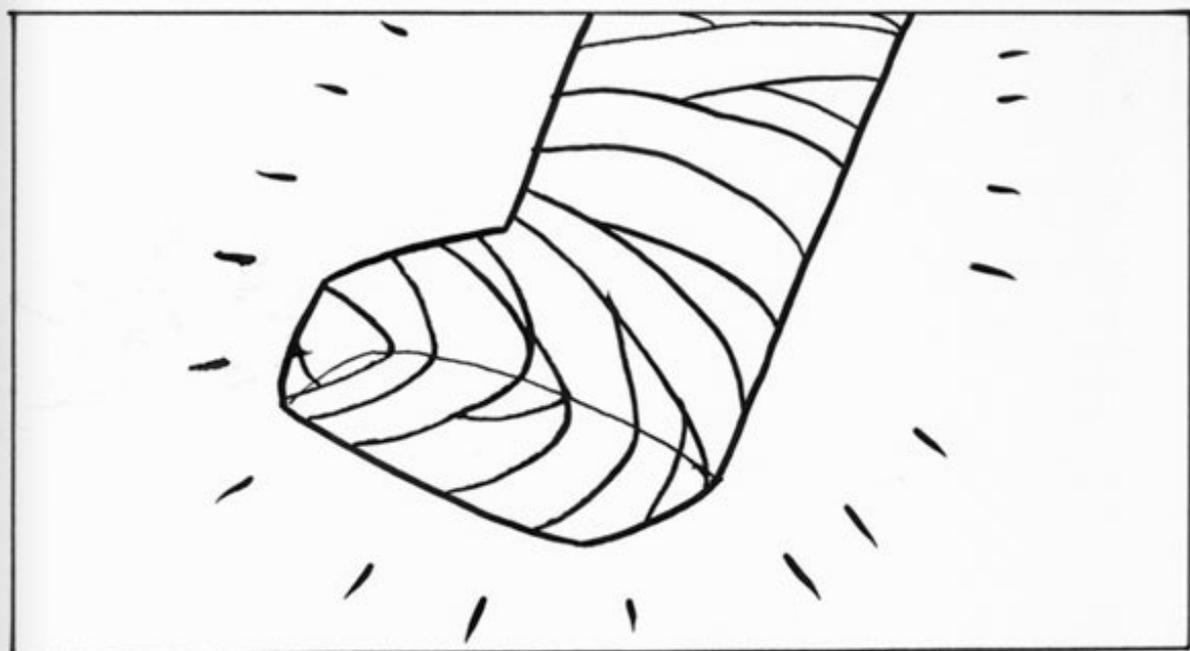


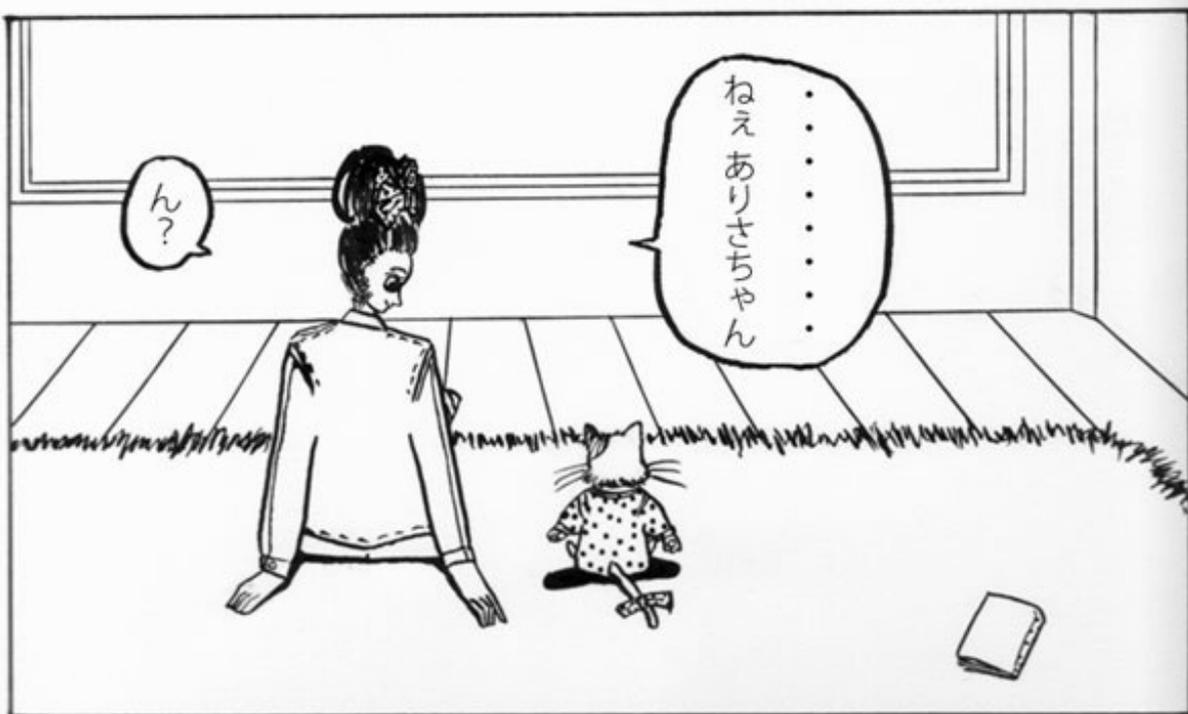
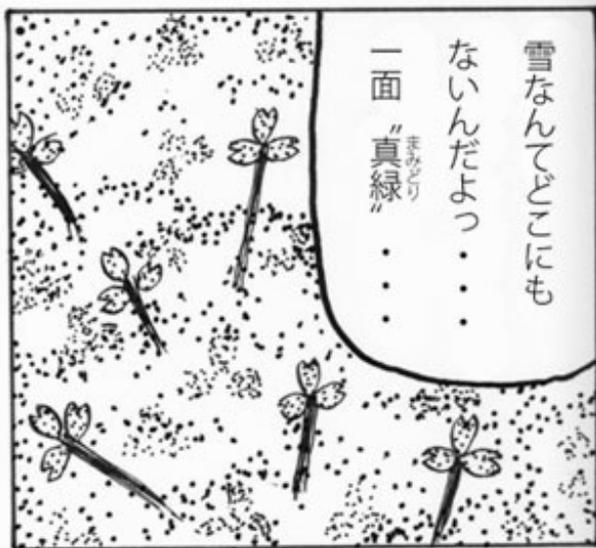
平里ありささんの日々。

～1人芝居も楽じゃないよねえ～

第3話、みちるに会いたいいいー！！について。

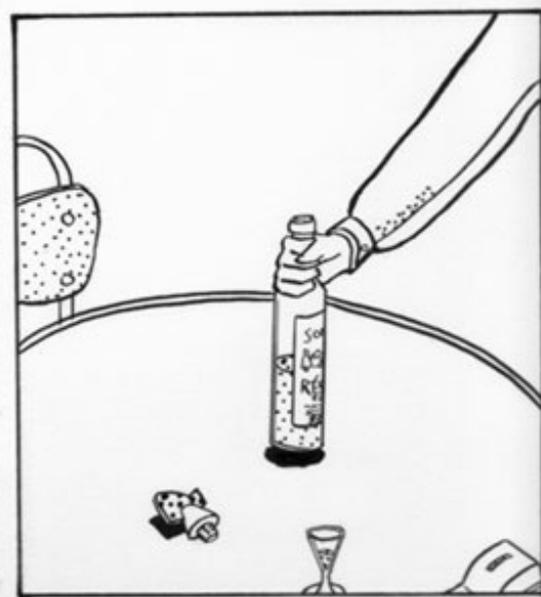
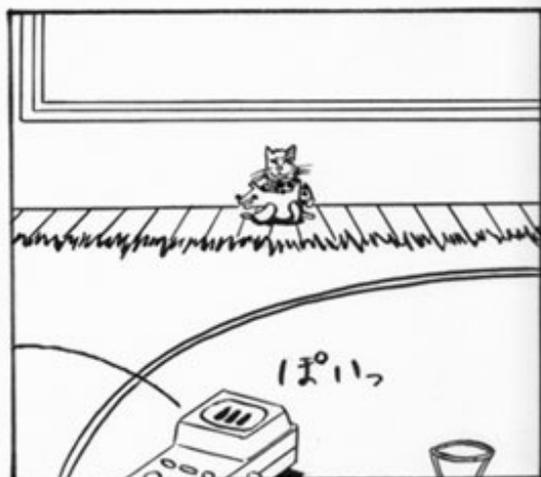
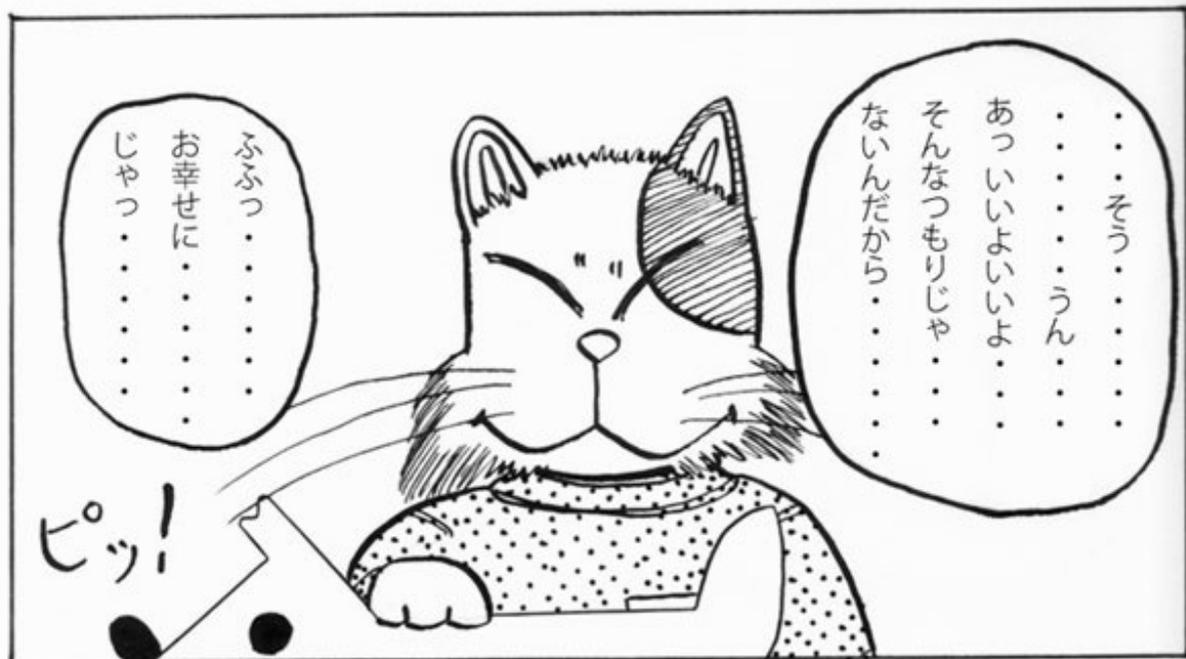


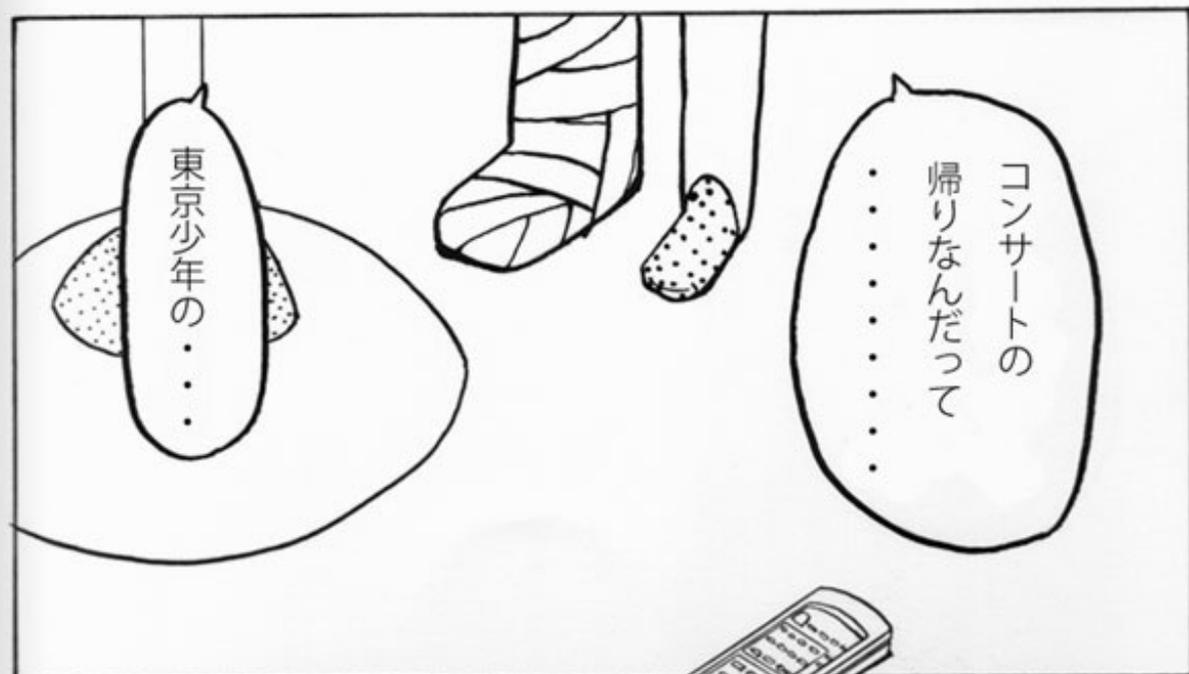














馬鹿だよね……

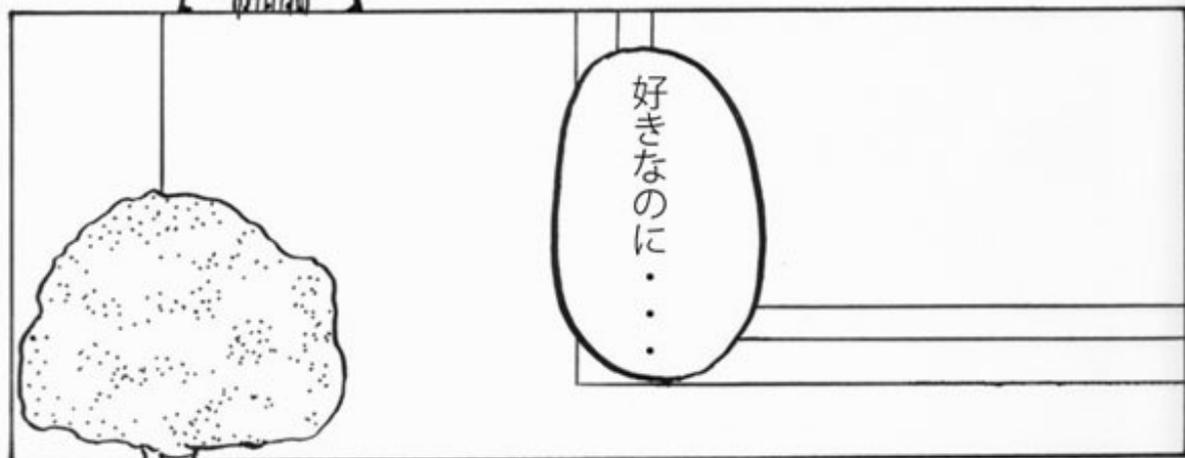
私……

「ありさまさん!!
あのねっさつきね
江口君にねっ……
告白したの!!」

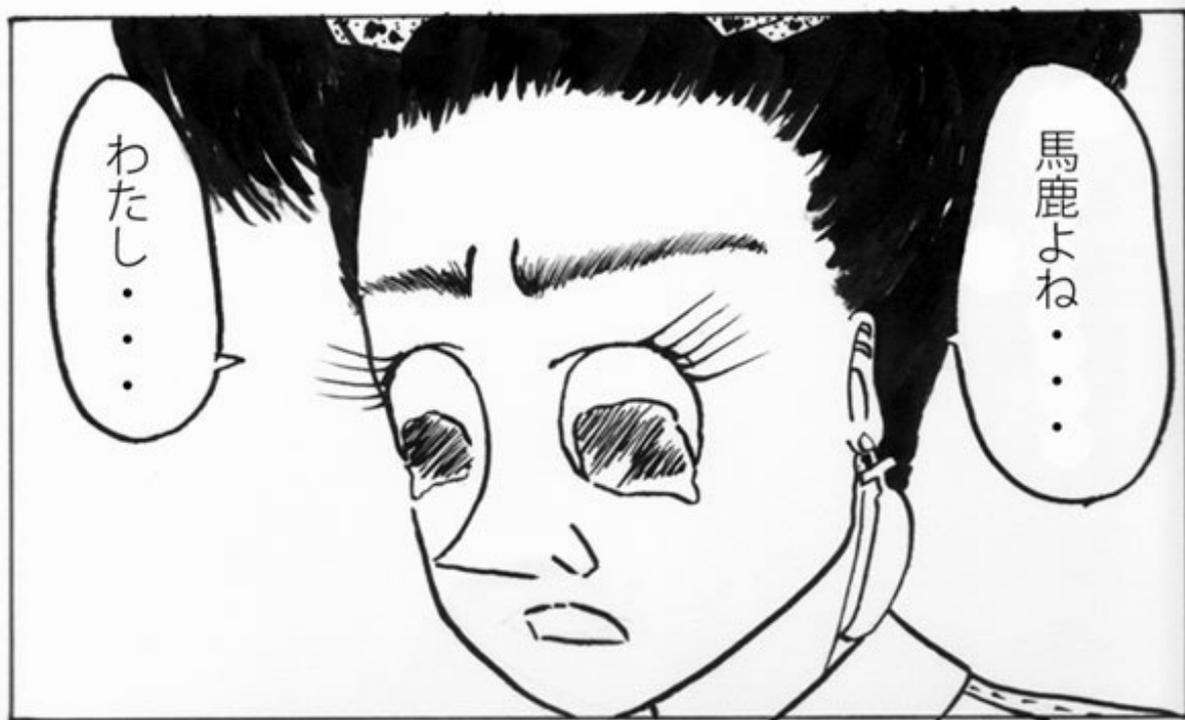
「江口君……
つきあって
くれるって!!」



そうっ……

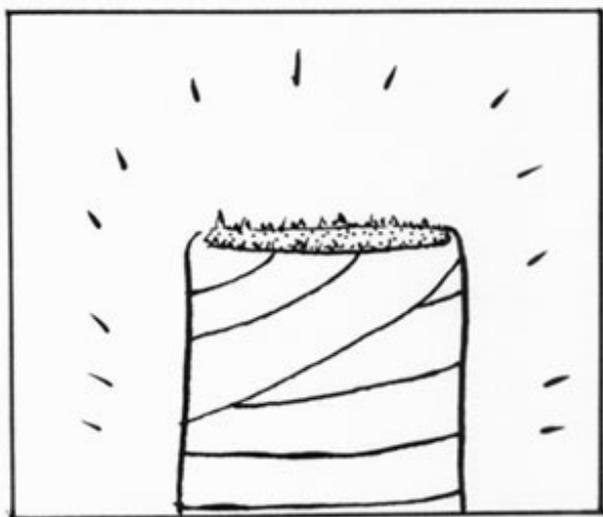
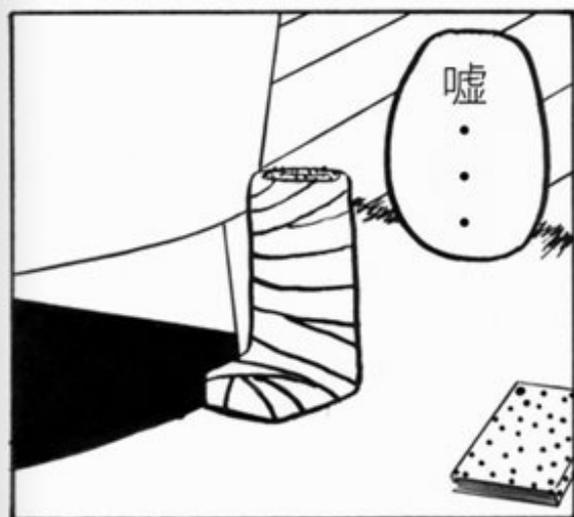
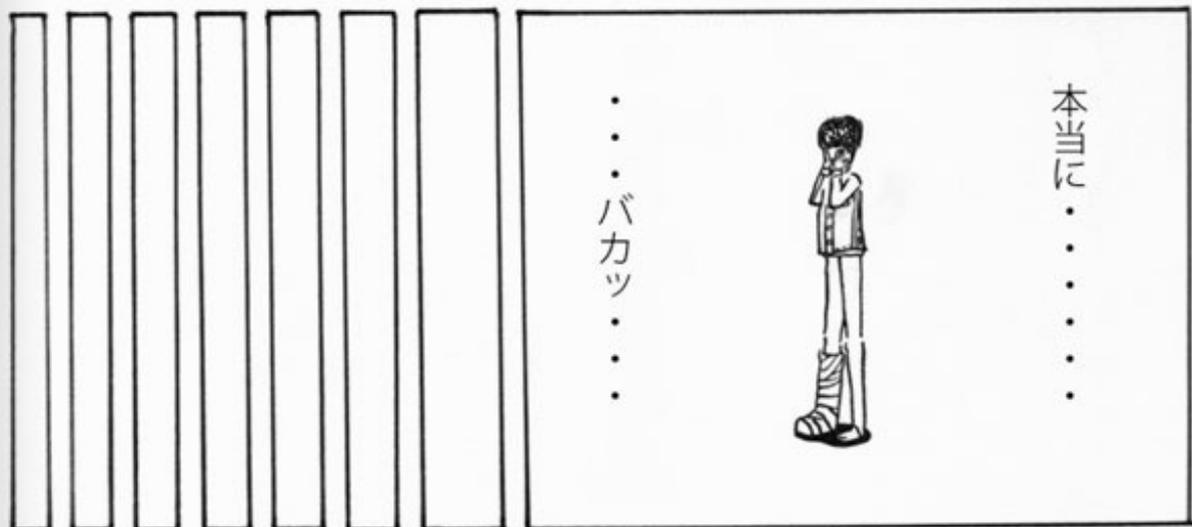


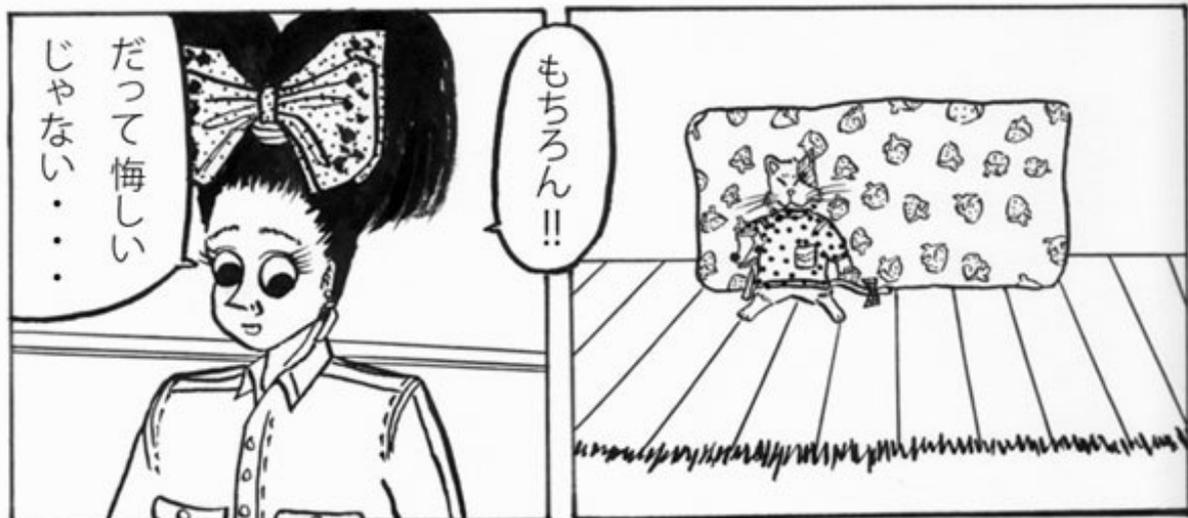
好きなのに……



馬鹿よね……

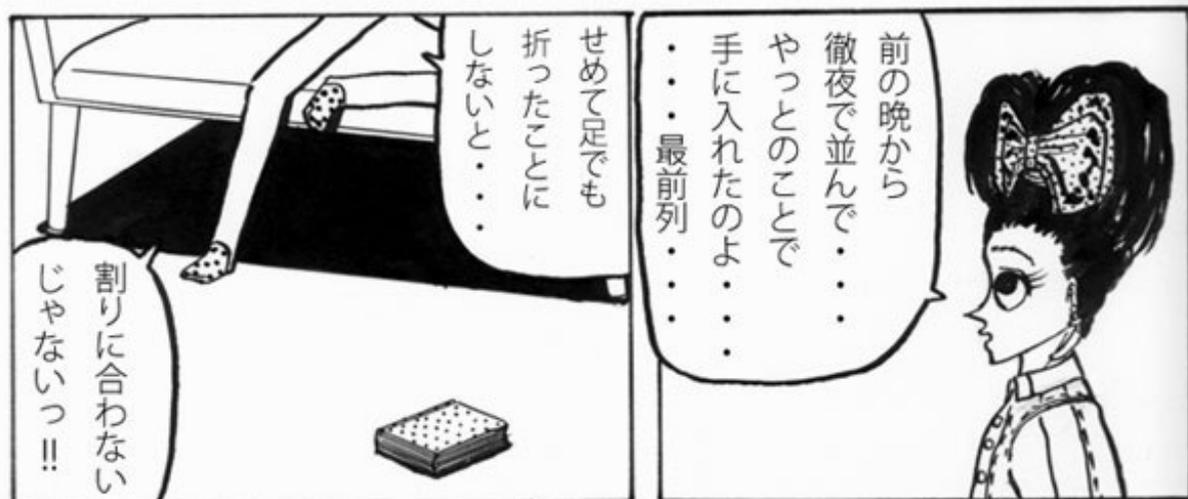
わたし……





だって悔しい
じゃない……

もちろん!!



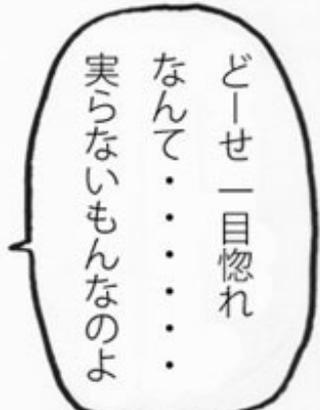
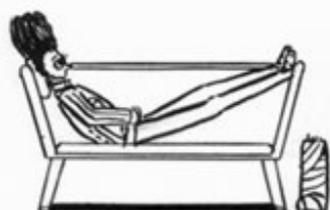
割りに合わない
じゃないっ!!

せめて足でも
折ったことに
しないと……

前の晩から
徹夜で並んで……
やっとのことで
手に入れたのよ……
……最前列……



でも……
恋って素敵よ!!
花ちゃん……



どーせ一目惚れ
なんて……
実らないもんなのよ

みちるに会いたいいいー!! について END

Q

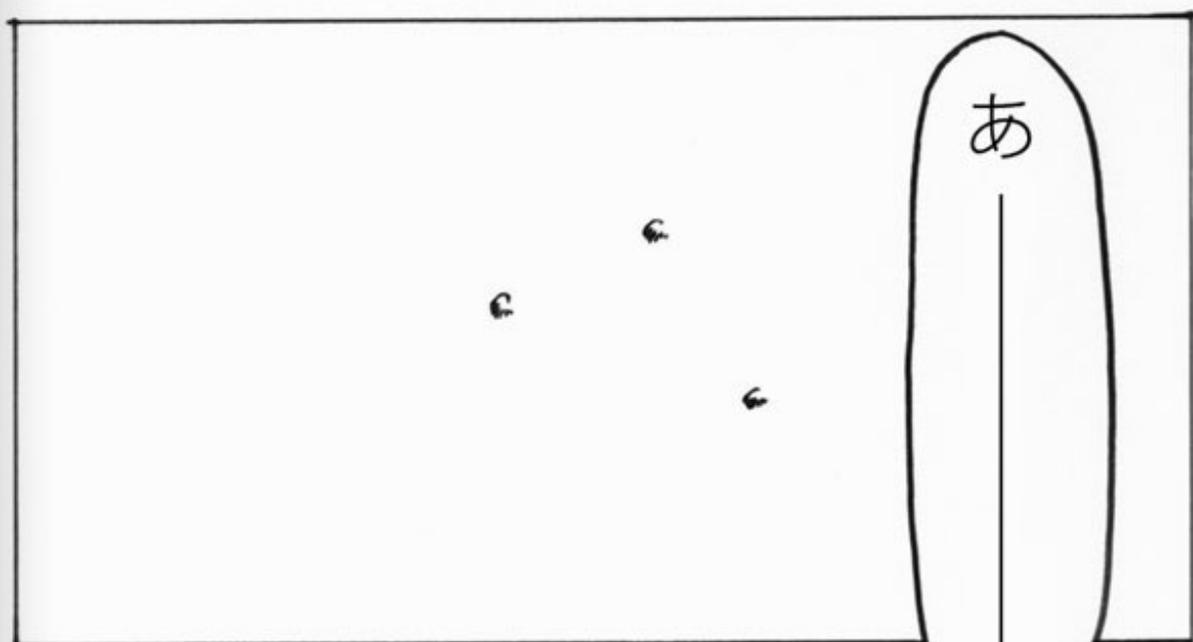


平里ありささんの日々。

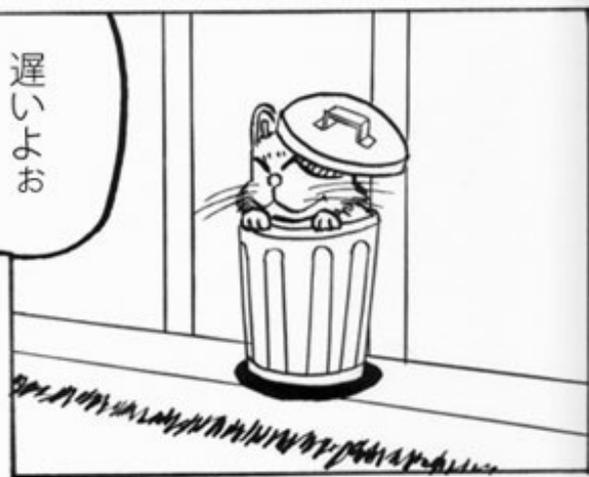
～1人芝居も楽じゃないよねえ～

第4話、ドルチェ、かわいい・・・について。







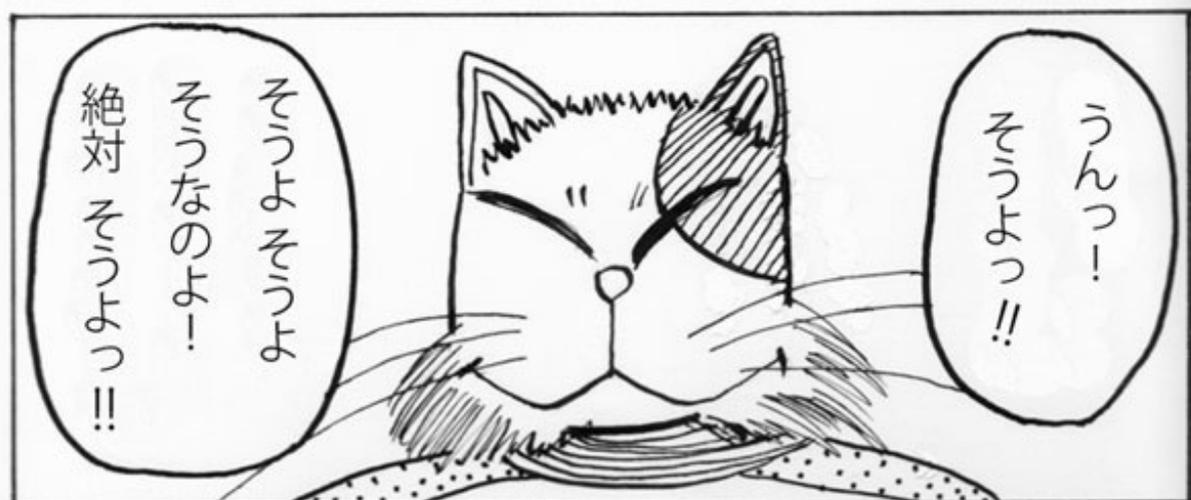
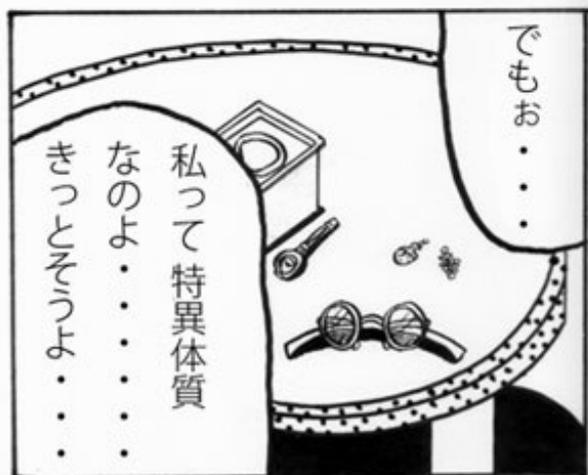


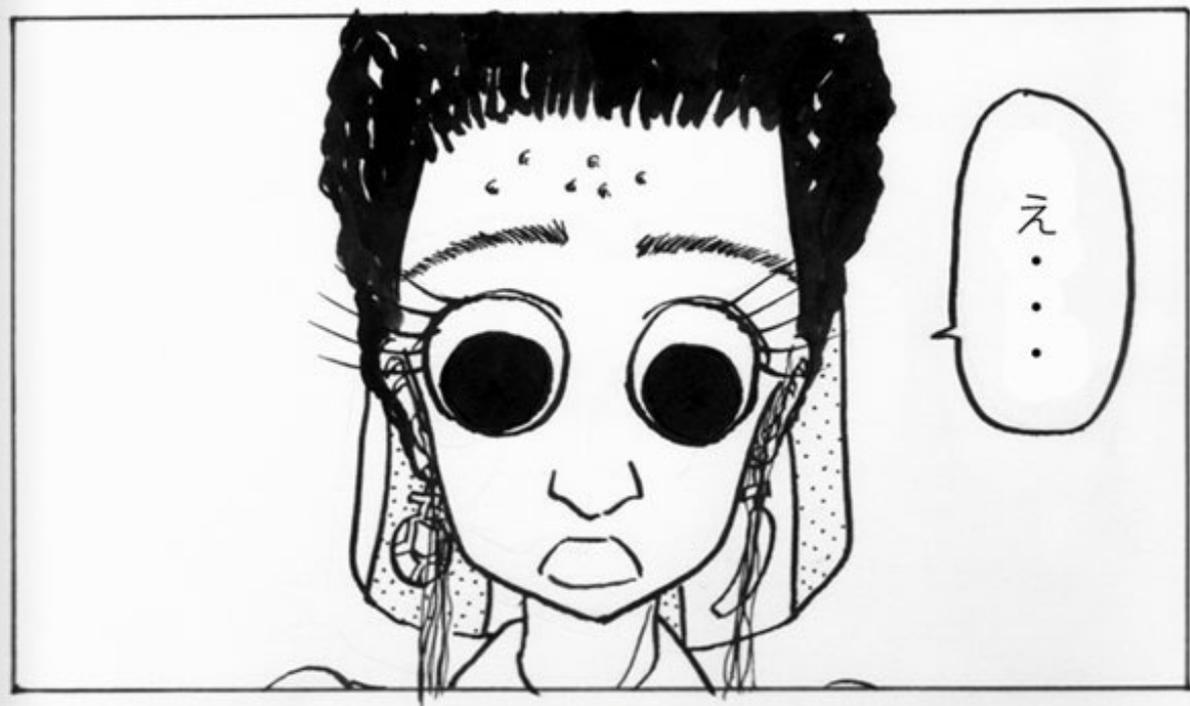


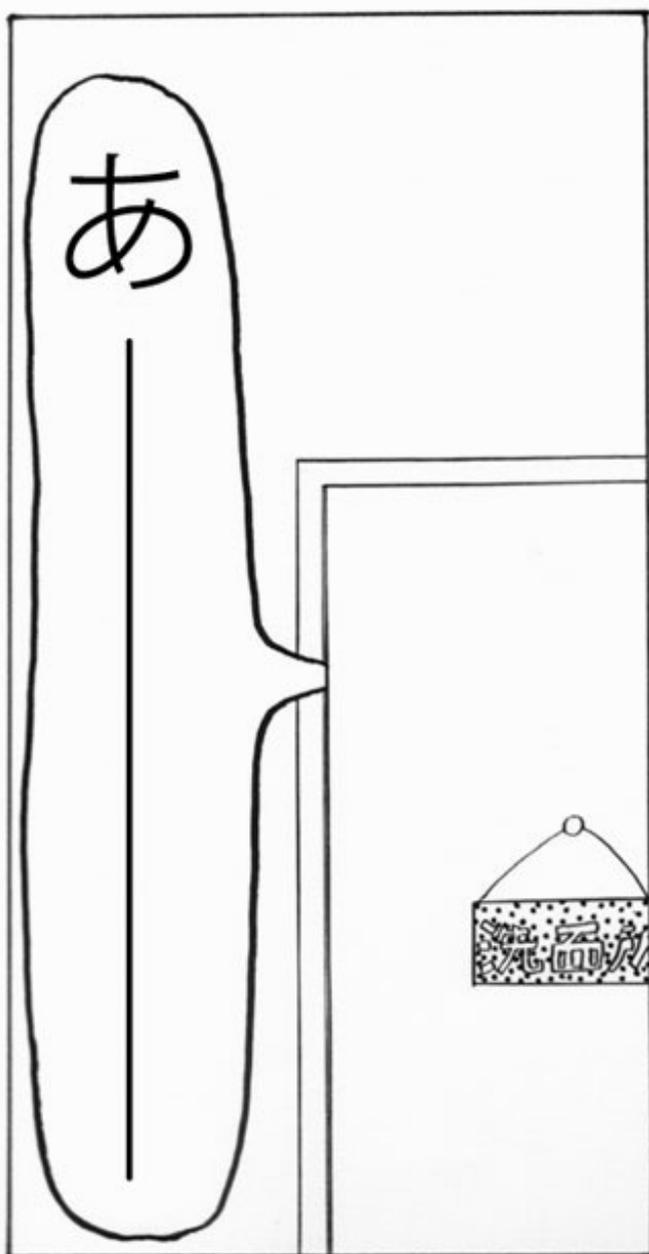
.....多分.....

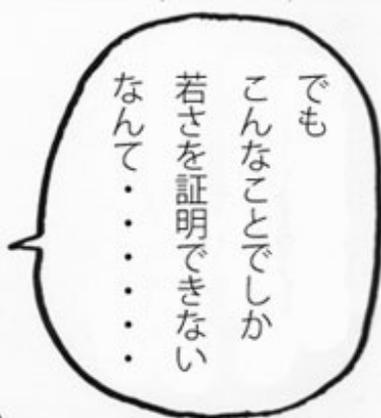












ドルチェ、かわいい・・・ について END

平里ありささんの日々。

～1人芝居も楽じゃないよねえ～

第5話、Pの悲劇について。



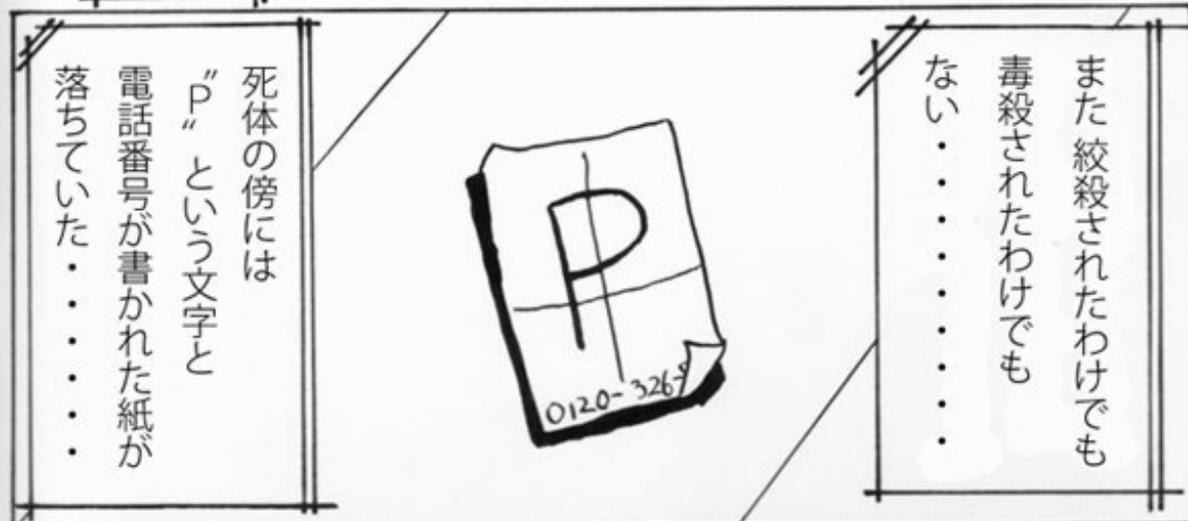


死体は……



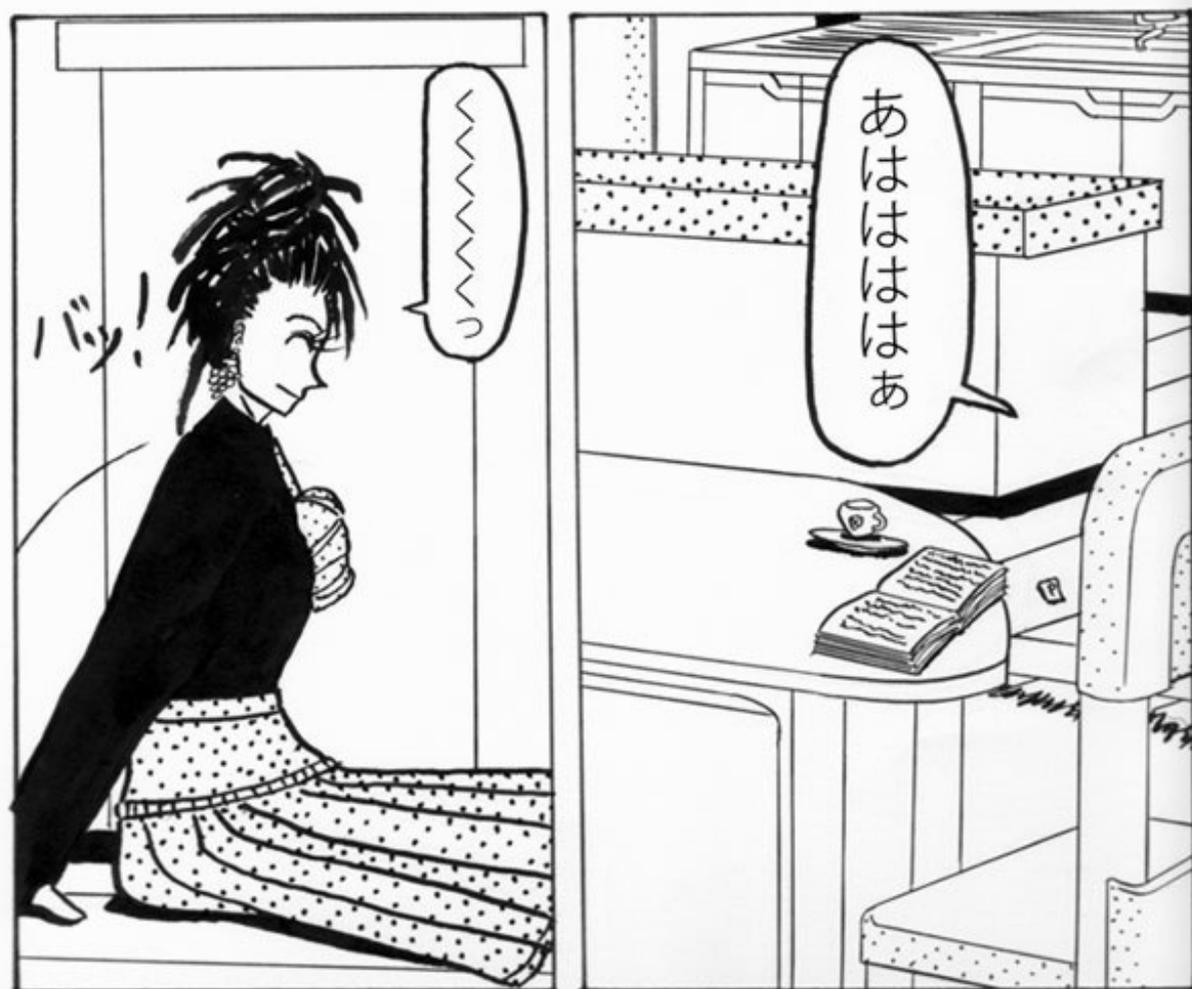
外傷は無い……

死体は床に
転がっていた……



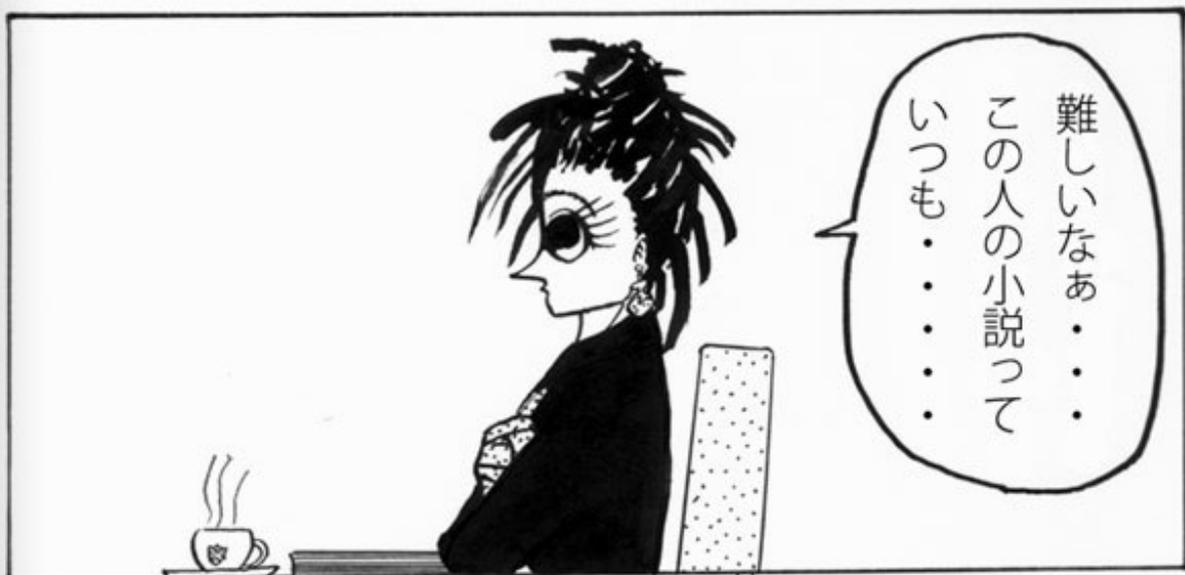
死体の傍には
“P”という文字と
電話番号が書かれた紙が
落ちていた……

また絞殺されたわけでも
毒殺されたわけでも
ない……









わざわざ死体の
気持ちにまでなってみたのに・・・



死んだーおそらくは殺された
と思われるー被害者の
プリネラバーキンは

オックスフォード大学の
二回生、20歳の女性であった



だがそんな
彼女に異変が
起こった……



美しい容貌を持った
彼女は成績も校内
3位の優等生

おまけに性格も
良く人望も
厚かった……



いや彼女に
ではなく

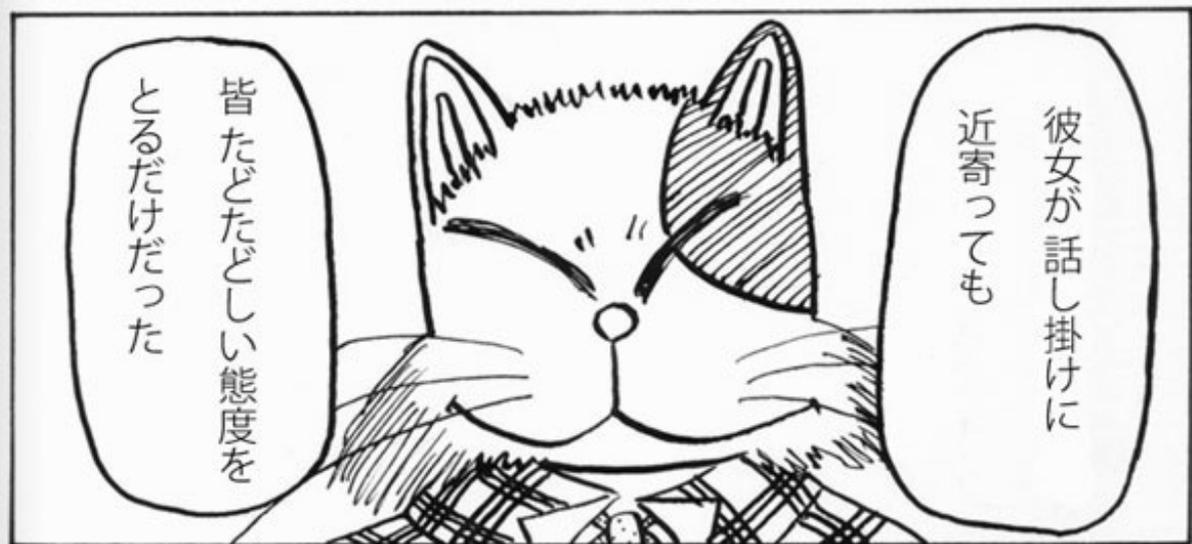
彼女の周辺に
異変が起きた
のだ……



彼女を避け出したのだ……



それまで仲の良かった
友達が突然……



皆たどたどしい態度を
とるだけだった

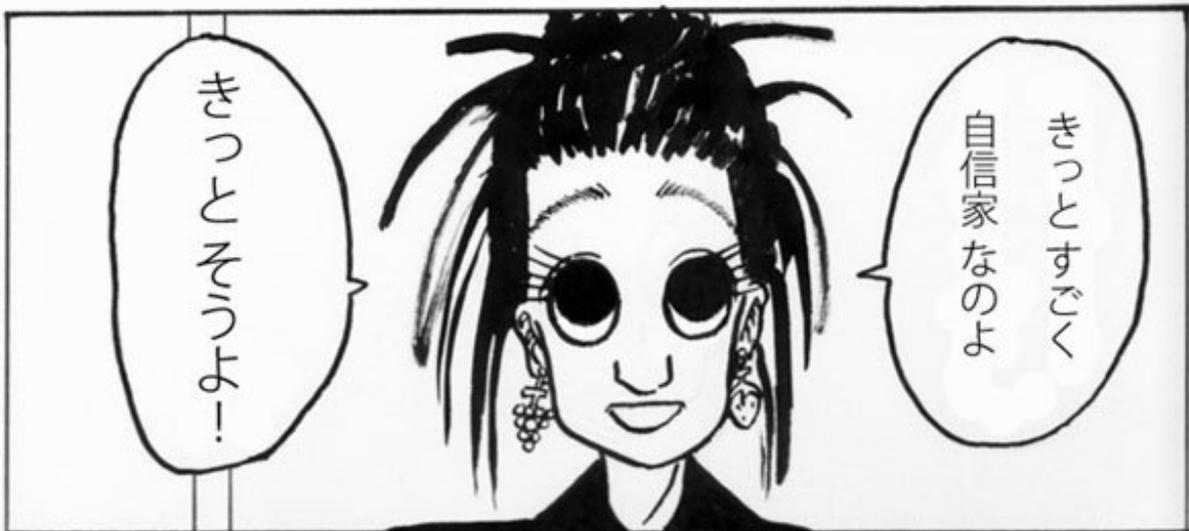
彼女が話し掛けに
近寄っても



そして……



彼女は迷った
悩み、苦しみ……







全ての発端は
あのメモにあった

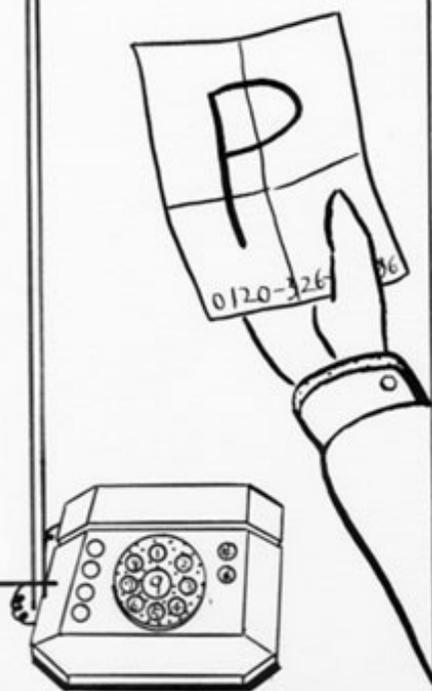


いや……もしかすると
発端は……

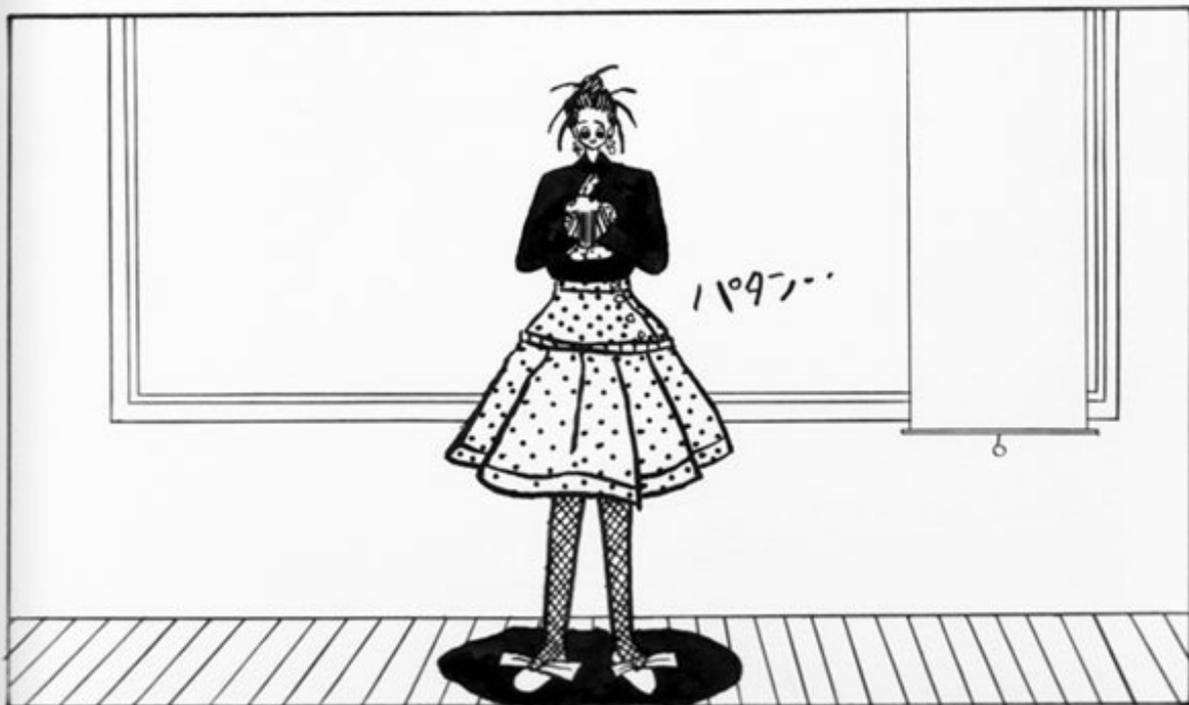


彼女の誕生日だったのかもしれない

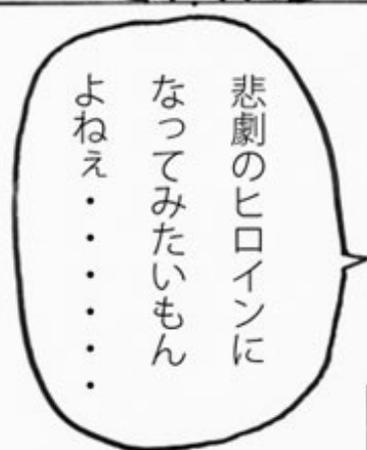
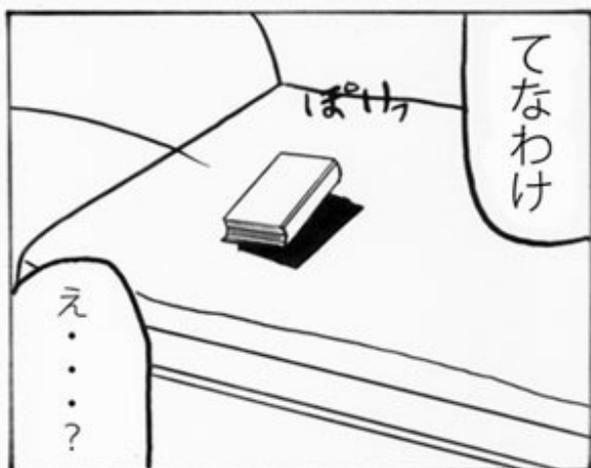
悲劇は彼女の誕生日に起こった……











平里ありささんの日々。

～1人芝居も楽じゃないよねえ～

第6話、ありささんの女優道について。



おお 我が愛しの
王子よ！^{またが}あなたは
白馬に跨って

このか弱き姫を
助けに来なくては
ならなかったの
です！！



それがっ！
それがそのような
みすぼらしい女
と

熱く 熱く
抱き合って
しまっなんてえ
！！



しかもっ！
……しかも
「白馬に跨って」
ではなくて

「白豚に跨って」
だなんてエー！！





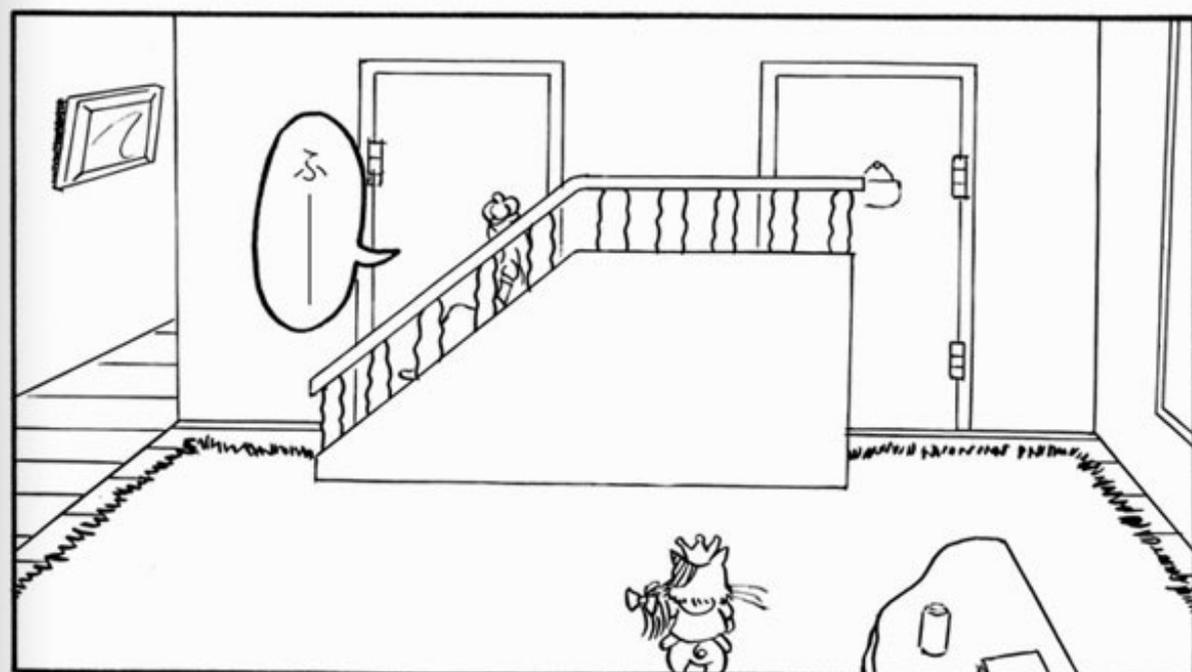
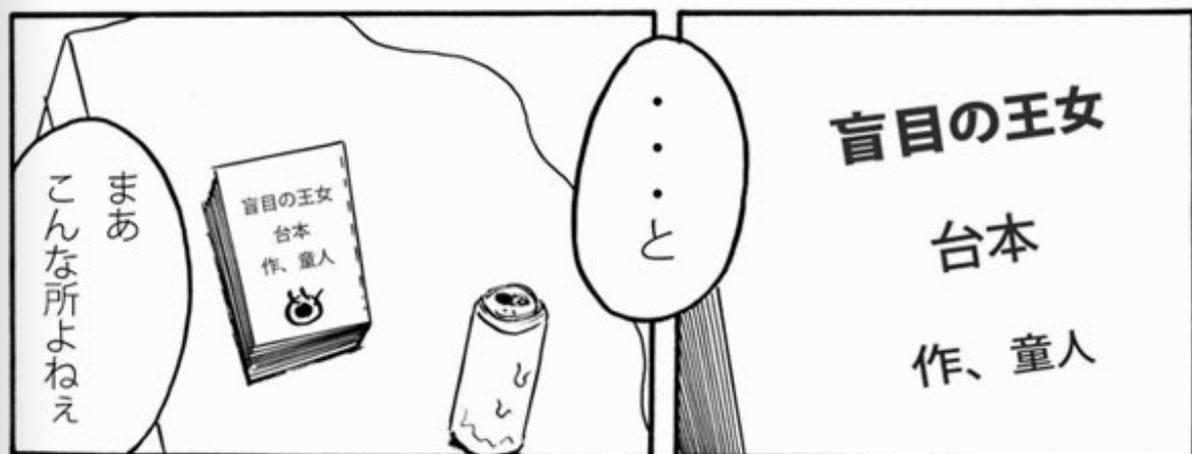
おお
ならば
私は…
このまま
永遠へと去り
ましよう!!



ああっ
貴方
は
なんと
ヒドイ
御方なのか!!



愛する者を失った
悲しみなど
貴方には到底
分からないの
でしょう!!



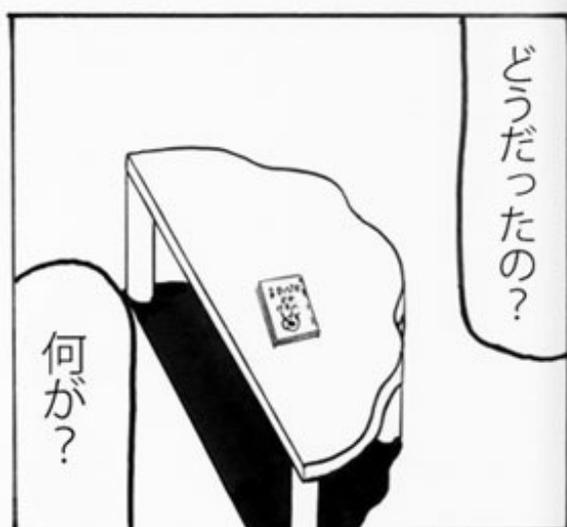




Lo









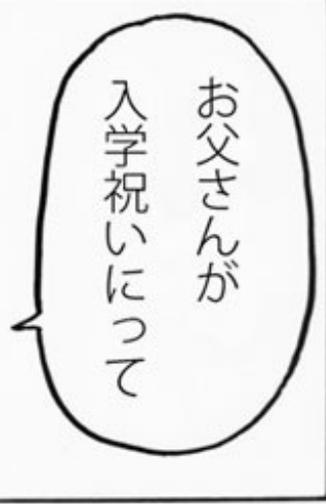
「.....」

「え.....?」

「いいよいいよ」

「学費だつてさ.....」

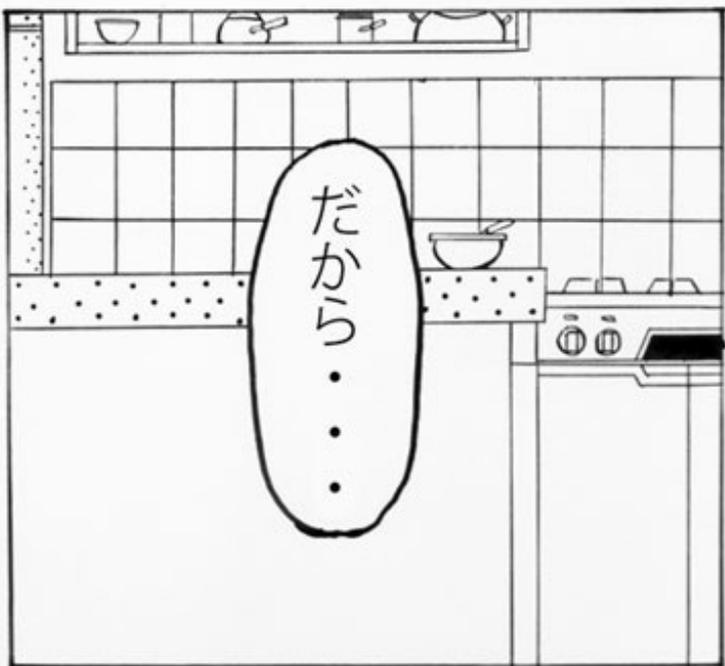
「出してもらつんだし.....」



お父さんが
入学祝いにつて

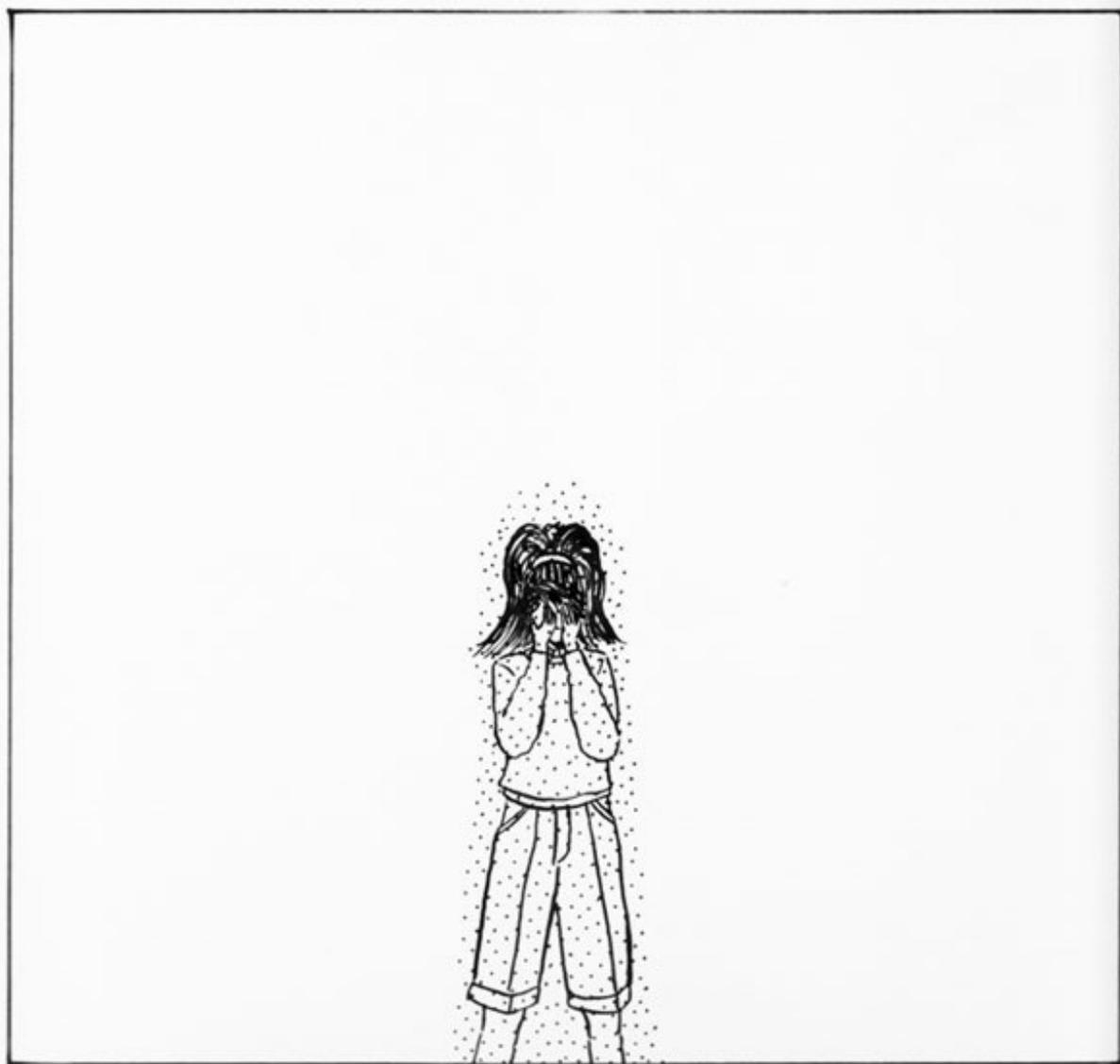


プレゼントして
くれたのよね.....



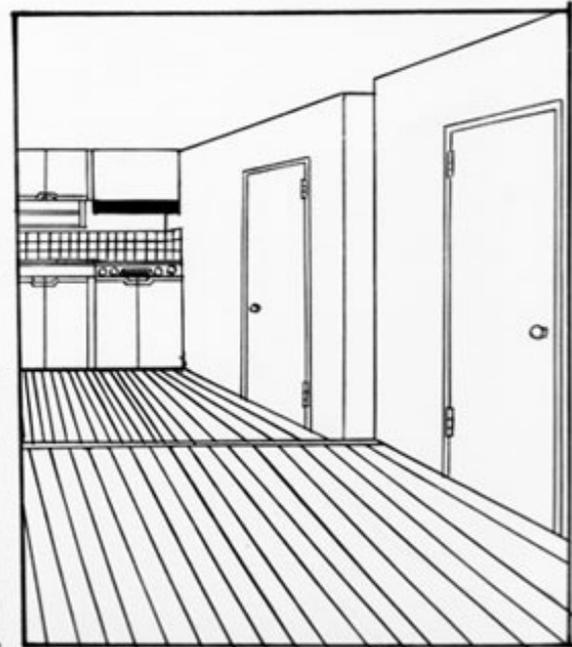
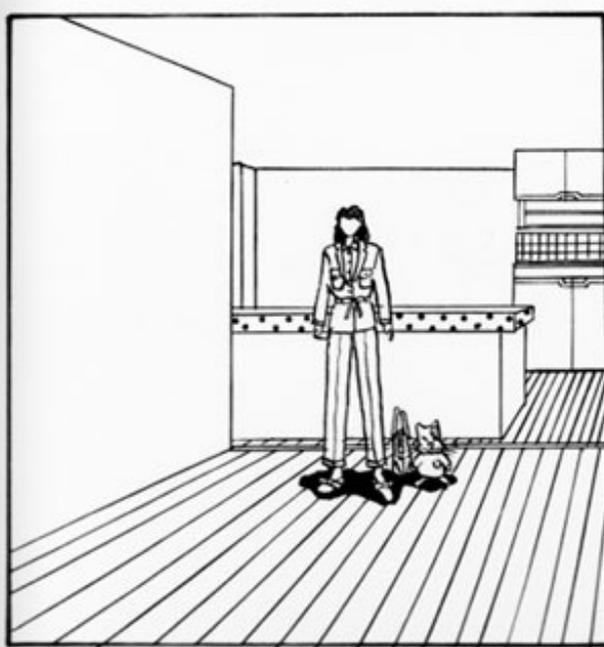
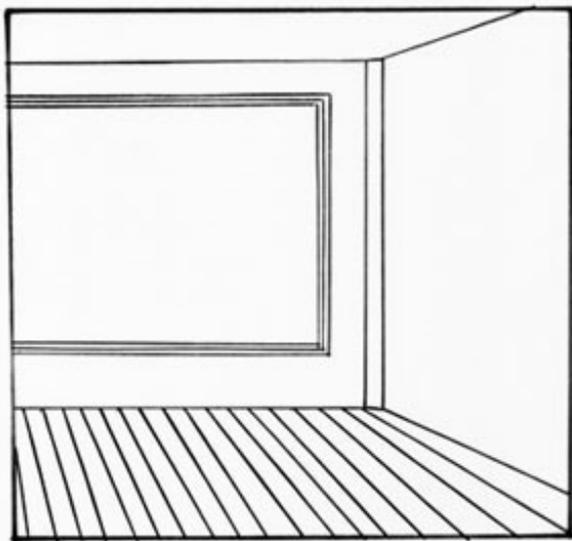
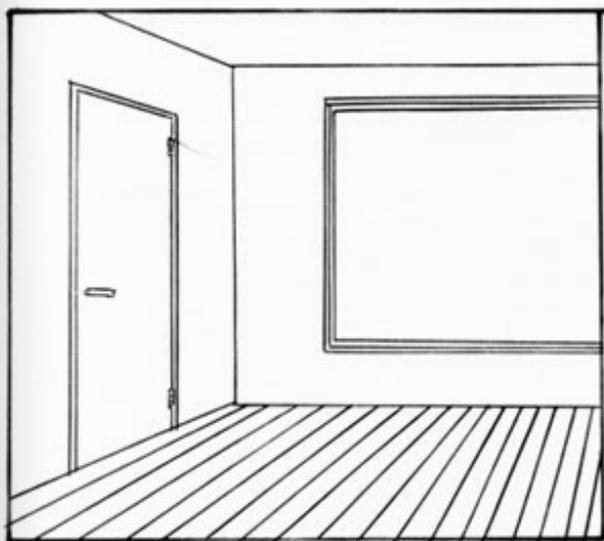
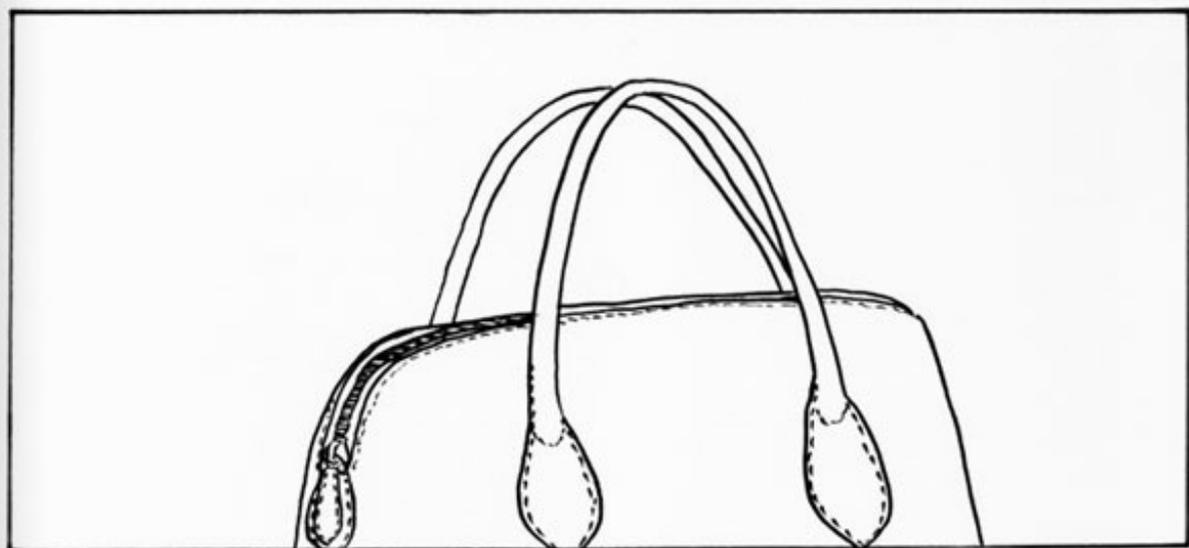
だから.....

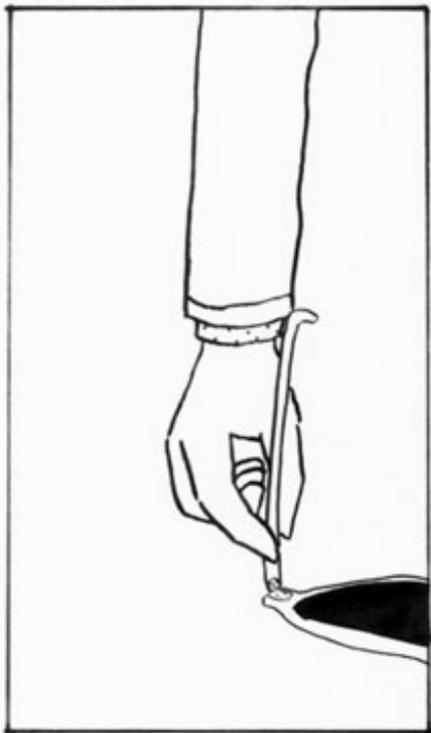


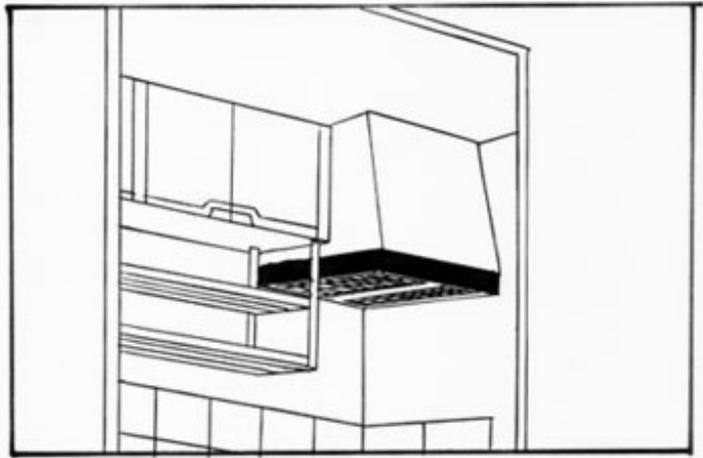
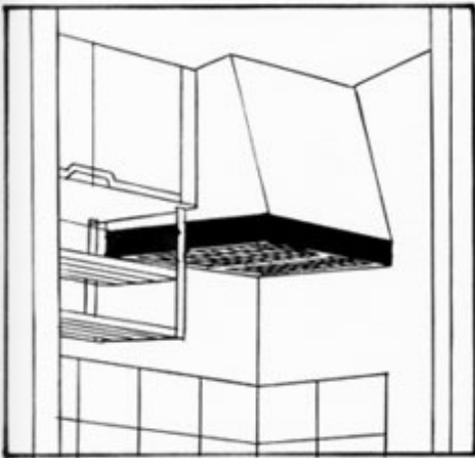
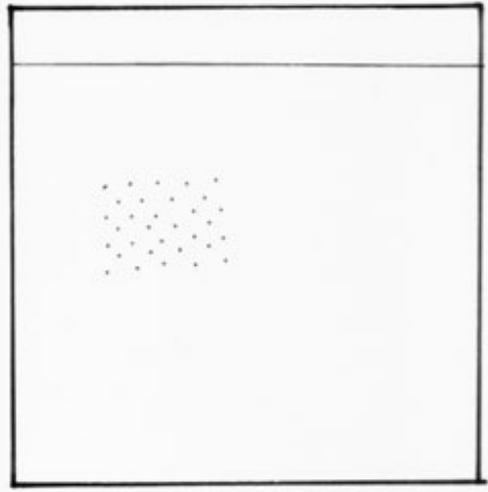
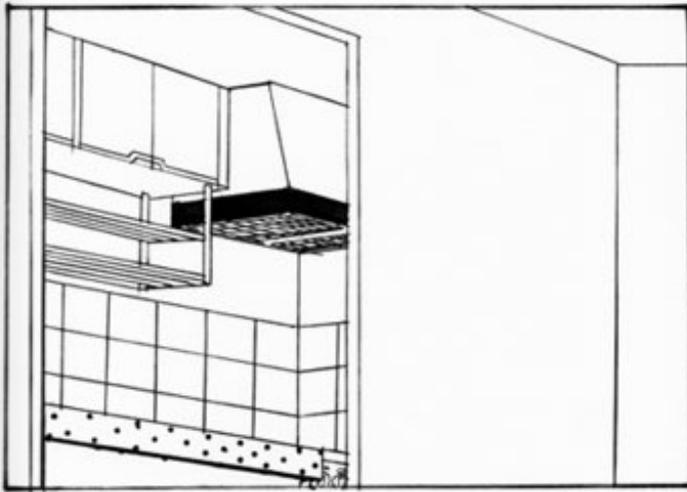


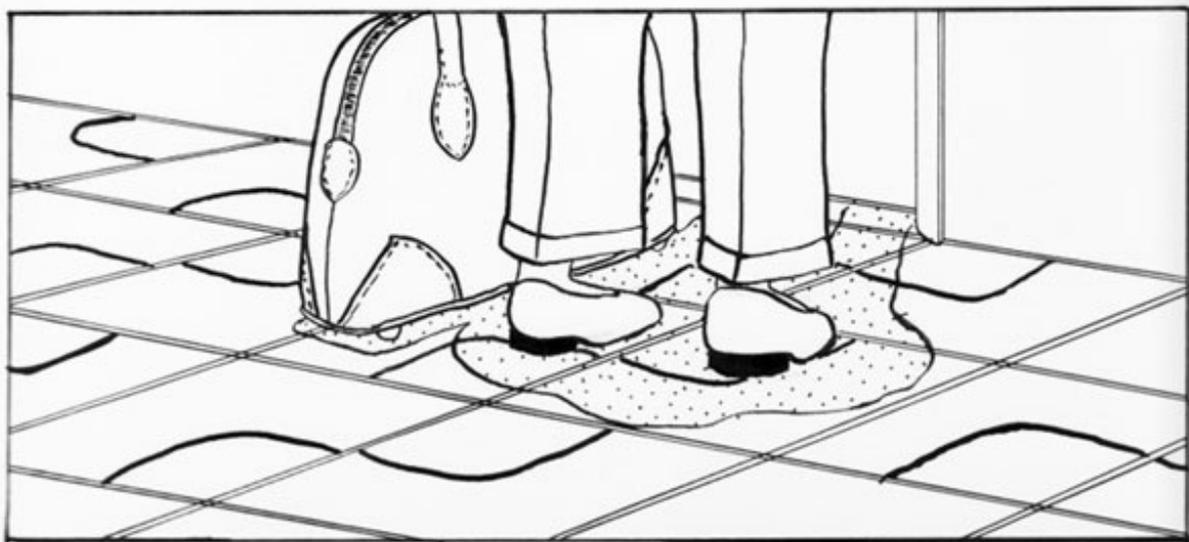


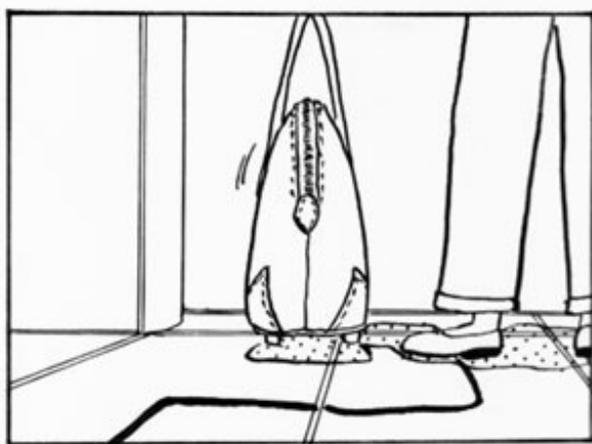
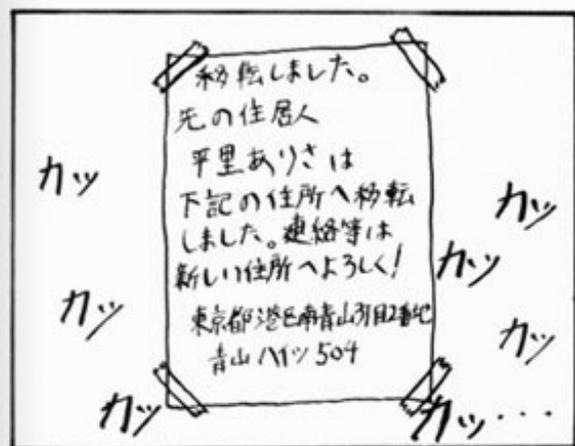




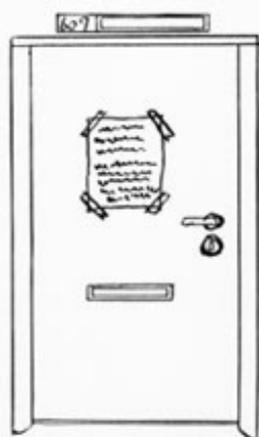




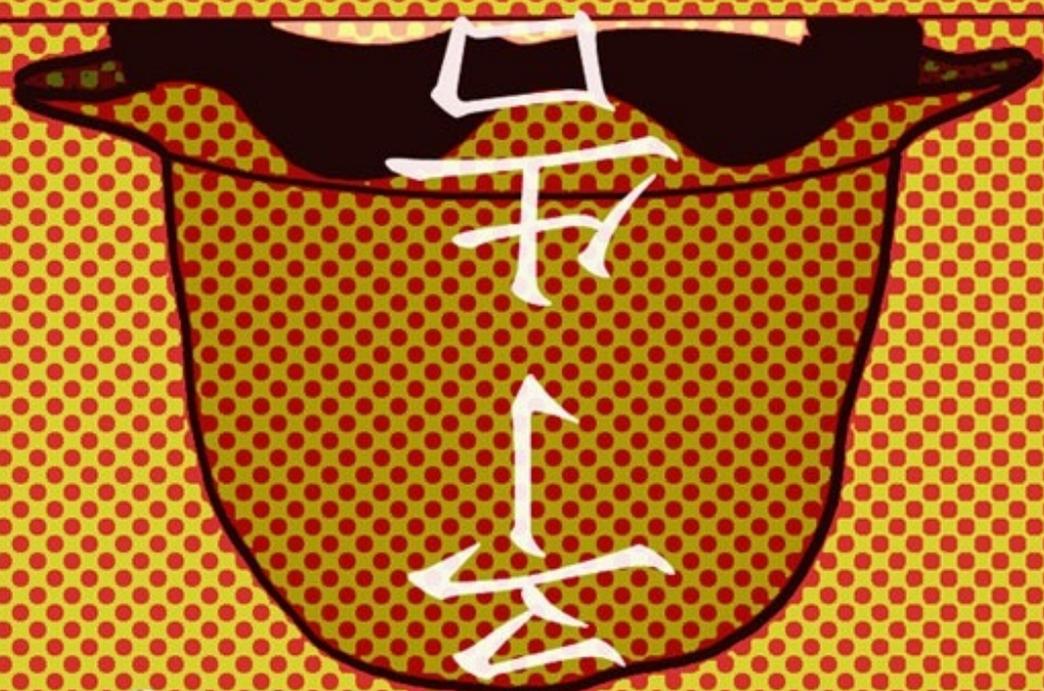




うん・・・事務所の人、ね
 ・・・・近くの方が良いからって。
 ・・・・それでね。お父さんは・・・
 ・・・・うん・・・今度の休みにでも
 ・・・・うん・・・あ、それから・・・



・・・あつお母さん・・・
 うん、私。ありさ・・・
 あのね・・・今度引っ越すことにな
 かって・・・え、あ、うん・・・
 都内よ・・・



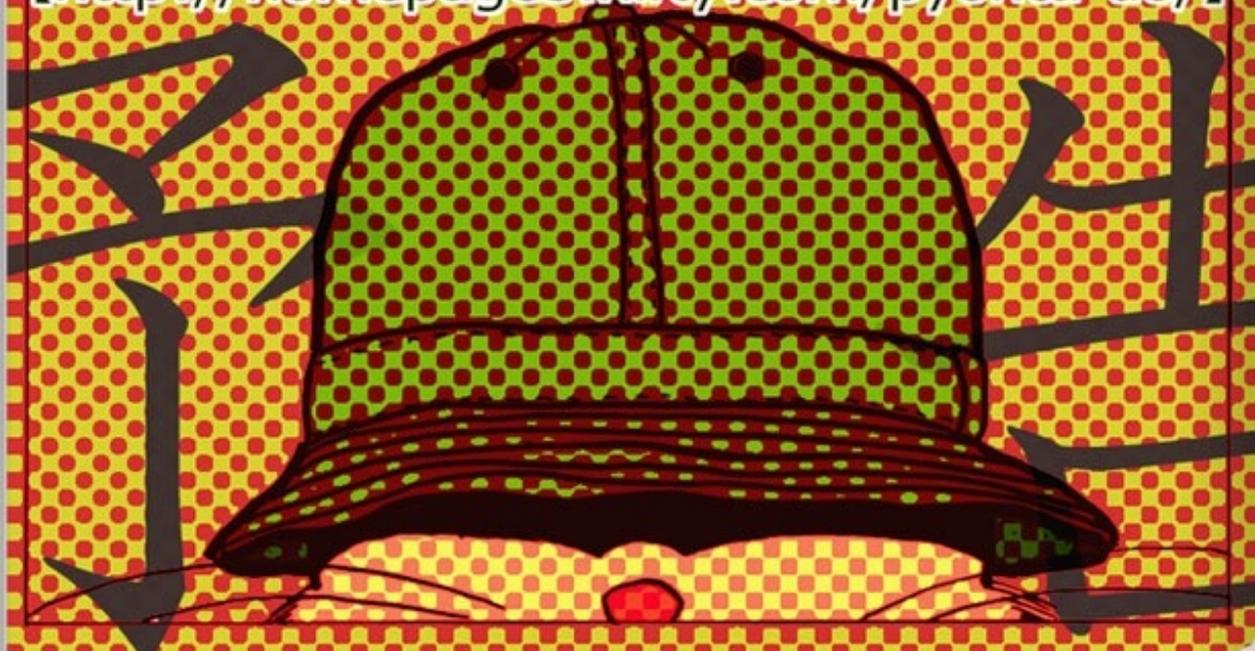
ウェブ連載時のコラムなども収録し
全頁全コマに巨り彩色を施した
「完全版」の刊行が決定！

2015年春、発売！

詳細は随時、公式ウェブサイトにて

「Do? Do! pyonta-do」

【<http://homepage3.nifty.com/pyonta-do/>】





平里ありささんの日々。

モノクロ・シンプル編集版 2014年10月発行

本作品は1991年に制作されたものです。

公式ウェブサイト「Do? Do! pyonta-do」

【<http://homepage3.nifty.com/pyonta-do/>】

にて2014年7月5日から10月11日まで

週刊連載していたものをまとめました。

 卯乃京都亭書房。

※全ての図版・文章の無断転載等を禁じます。※

平里ありささんの日々。

<http://p.booklog.jp/book/91476>

著者：びよん太堂。

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/pyonta-do/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/91476>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/91476>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ